

ついこの間まで新造成地にポツカリ置かれたままの感じの新校舎も最近はずっかり落ちついてきました。改築記念に贈った周辺の樹々もすっかり定着して緑をつけ、いろいろのミニメントもそれぞれに環境を引き立てております。



落ちついてきた新校舎

会長 石井睦蔵

あの雨漏りのする薄暗い木造校舎に郷愁を感じないわけでもないが、こうして多年の念願が叶って校地も拡張され、立派な新校舎が完成して、多くの後輩が明るく豊かに学ぶ姿を見ることはこの上なく喜ばしいこととあります。多くの同窓生よりも叱咤激励のお言葉をいただいておりますが、幸い母校においては持田校長先生を始め先生方の並々ならないご努力により、大学進学状況は昨年、そして本年と目に見えて向上しております。(財)諏訪清陵会を通じ、また

創立百周年記念総会は平成七年十一月五日(土) 昨午構成された「創立百周年記念事業計画委員会」は、しばしば会合を重ね、また多くの意見を聴取しながら、この程、多彩な記念事業の原案を作成しました。この原案は去る二月の

幹事会で承認されましたので、本年六月の総会に提案されることになっております。この計画の一つに「同窓生の著書資料等の展示室の設置」という項目があります。先輩の優れた業績は後輩在校生に對しても、この上ない良い刺激になるものと思われ、会員各位のこれまでの、またこれからの著書のご寄贈につき協力下さいますようお願いいたします。また「第二校歌の旅」として博浪沙を中心とした中国旅行なども計画されております。

記念祝賀総会は平成七年十一月五日(土)であり、この百周年という意義ある節目を大切に、この機会に同窓生の親睦をより一層深め、また母校の更なる発展に寄与して参りたいと思っております。当日の盛會を今より祈念して参ります。

一、懇親会 (アイウエオ順 59回生) 午後四時四十分より 於「成田屋」

一、会費 三、〇〇〇円 当日受付で多数会員のご来会をお待ち致します 諏訪清陵高校同窓会

(当番幹事59回生・次期当番幹事60回生・サブ幹事69・79回生)

会長 石井睦蔵

定期総会案内

平成四年度

一、日時 六月二十一日(日) 午後一時より

一、場所 諏訪市大手二丁目 「諏訪シティホテル 成田屋」

一、議事

- (1) 平成三年度会務・決算・特別会計報告
- (2) 役員改選
- (3) 創立百周年記念事業計画審議
- (4) 平成四年度事業計画・収支予算審議

一、記念講演 午後二時二十分より (ジャーナリスト リレー講演) 演題 「いま世界は……」

講師 朝日新聞論説副主幹 高橋 文利氏

共同通信記事審査室主幹 玉木 裕氏

NHK解説主幹 堀内 敏広氏 (アイウエオ順 59回生)



第18号

諏訪清陵高校同窓会
会報編集委員会
昭和28年入学
第59回生
〒392 諏訪市清水1-10-1
電話 (0266)58-0356

計報

平成3年4月から
平成4年3月までのご報告分

謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。

氏名(回)	逝去年月日	小松 忠幸 (36)	3.10.27
林 五一 (11)	平. 3. 3. 7	花岡 金郎 (37)	2. 5.27
立石 益己 (13)	年月不詳	大橋 健 (37)	3. 8.26
竹ノ内省三 (18)	4. 2.10	浜 雅雄 (37)	4. 1. 6
矢島 一美 (20)	3.11.11	中村 民弥 (37)	4. 1. 9
小松忠一郎 (21)	2. 4.14	藤森 克郎 (40)	3. 3.14
野沢 隆一 (21)	3. 3.31	林 高司 (40)	3. 3.21
後町清三郎 (22)	3.12.18	河合 武男 (41)	3. 8.15
吉川 辰男 (25)	2. 7.24	小口 哲郎 (41)	3. 9. 3
久保田健治 (25)	3.10. 8	藤森 利男 (41)	4. 2.19
金原 慎一 (25)	4. 2.11	伊藤 武治 (43)	3. 5.25
堀内 次郎 (26)	3. 5.29	宮下 庄司 (43)	3. 7.12
中村 国武 (27)(旧職)	3. 5.16	傳田 忠義 (43)	3. 7.30
上条 清吉 (27)	3.11. 3	飯島 久二 (43)	4. 1.29
五味 美一 (27)	3.11. 7	大塚 春彦 (44)	3.11.20
宮坂 庄平 (27)	4. 1. 6	小川 才市 (49)	3. 1.12
小口 良武 (28)	3. 3. 7	飯島 幸雄 (49)	3. 6. 5
渡辺 秀雄 (28)	3. 3.31	名取 望 (50)	昭.58.一
山岡 国夫 (28)	3. 6.10	堀内 信吾 (51)	平. 3. 8.23
北原 造次 (29)	3.10.13	薩摩林和美 (52)	3. 3.21
太田 捲治 (30)	3. 9.20	神山 豊 (58)	3. 4.10
藤森 明 (32)	2.10. 5	藤森 岑生 (58)	3. 6.24
大熊 正人 (32)	2.11.29	今井 潤一 (58)	3.12.19
有賀 利勝 (32)	3. 4. 1	宮坂 望 (58)	4. 1.19
奥山 清 (32)	3. 7.15	安達 隆夫 (59)	3. 7.16
中島 良一 (32)	4. 3. 9	河西 秀憲 (59)	3. 9.12
林 勝治 (33)	3. 7. 1	進藤 武政 (64)	3. 4.14
石浦 幟 (33)	3.11.21	浜 信義 (66)	3. 8. 4
今井 正明 (34)	3. 4.13	中沢 茂雄 (75)	3. 6. 4
森野 勇 (34)	3.12.22	白田 永治 (旧職)	3. 4. 3
茅野 豊 (36)	2.12.26	鈴木 栄輔 (旧職)	3. 6.27

支部連絡場所

原 村	鎌倉徳之丞	原村弘沢5,447 ☎79-2628
茅 野	永沢俊是	茅野市金沢4,696 ☎73-4040
諏 訪	小口達雄	諏訪市湖岸通り4-7-12 ☎52-3463
下諏訪	高橋新造	下諏訪町5069 ☎28-1173
岡 谷	守矢 真	岡谷市幸町7-41 諏訪信金内 ☎23-4567
富士見	加々見一郎	富士見町境葛窪 ☎65-3420
上伊那	長田源康	上伊那郡辰野町 平出上町1607 ☎41-0172
松 本	丸山数馬	南安曇郡三郷村温7175 ☎0263-77-4374
長 野	五味 連	長野市上松1-10-13 ☎0262-32-5509
東 海	竹村 弘	名古屋市千種区田代町 蛸ヶ池上2-8 ☎052-761-5434
東 京	林 尚孝	我孫子市白山2-15-2 ☎0471-83-2726

同窓会事務局

〒392 諏訪市清水1-10-1
諏訪清陵高校内
諏訪清陵高校同窓会
TEL 0266-58-0356
FAX 0266-57-0348

編集後記

七年に一度の御柱祭の年を迎え、諏訪は燃えた。郷里を離れて活躍する諸兄もこの機会に帰郷した方々も多かったと思う。母校も平成七年には創立百周年を迎えることになった。この一世に近い輝かしい伝統を踏まえ、さらなる

る飛躍を願う気持ちは同窓生の等しく期待するところである。そんな想いを母校に三代にわたって学んだ家族の中から七組の皆さんに母校への熱い想いを語ってもらった。「温故知新」である。執筆いただいた二十一人の皆さんはそれぞれ所を異にして活躍されている方々が多いだけに、原稿をとりまとめた際に、家族の方には厚く感謝申し上げます。美才厚行

編集委員
牛山 孝 後町廣志
内藤好昭 細野 祐

同窓会事務局の皆様には多大なお力添えをいただき心より感謝申し上げます。(内藤記)

校歌等CD (コンパクトディスク)

・第一校歌——東に高き 第二校歌——ああ博浪
清陵祭の歌 清陵賛歌 応援歌 鎮魂曲
諏訪郡歌 信濃の国 等収録
・校歌解説 歌詞・曲譜付き

一枚1,000円(送料300円)

千萬人文鎮 (ペーパーウェイト)

「自反而縮雖千萬人吾往矣」 平林舟鶴(37回) 書
アンチモニー製 桐箱入り

一個1,000円(送料500円)

*申し込みは、電話またはハガキで事務局へ
*お代は、品物に同封の郵便振替で
*CDと文鎮の両方の場合、送料600円です

平成3年4・5 平成4年
度諏訪清陵高校入学式 入
学者30名(内女子10名) (97
回生) 石井会長祝辞
4・25 岡谷支部総会
於信濃屋 石井会長 守矢
教頭ほか出席
4・27 上伊那支部総会
於下辰野公民館 小菅副会
長 持田校長出席
5・16 第4回百周年計
画委員会 於はつしま 有
賀委員長ほか出席
5・18 諏訪支部総会
於成田屋 石井会長 守矢
教頭ほか出席
5・24 会計監査 於清
陵会館 林監事ほか出席
5・25 (財)諏訪清陵
会理事会 於学校 石井会
長ほか出席
・常任幹事会・幹事会 (平
成3年度定期総会提出議案
審議ほか) 於清陵会館
石井会長ほか出席
・懇親会 於橋場
5・28 同窓会報17号
完成発送
6・16 本部役員会 於
諏訪駅前市民会館
10・4 東京支部総会

平成3年度定期総会 於日本青年館東洋軒 石井
会長 守矢教頭ほか出席
2・6 第6回百周年記
念事業計画委員会 於はつ
しま 有賀委員長ほか出席
2・8 東海支部総会
於名古屋千種会館 井上監
事出席
2・17 長野支部総会
於長野バスターミナルビル
持田校長出席
2・22 常任幹事会・幹
事会 (平成3年度定期総
会案 百周年記念事業案審
議ほか) 於清陵会館
・懇親会 於清陵会館
2・25 富士見支部総会
於富士見油屋 小菅副会長
ほか出席
3・7 平成3年度諏訪
清陵高校第44回卒業式 卒
業生30名(男子20名・女子
10名) (95回生) 石井会長
祝辞
3・15 原支部総会 於
原村グリーンプラザホテル
石井会長出席
3・19 第7回百周年記
念事業計画委員会 於ある
が 有賀委員長ほか出席
(事務局 木下芳英)

平成3年度
会務報告

12・3 文化講演会 議ほか) 於清陵会館
(財)諏訪清陵会後援 於学
校 演題「ソ連とは何であ
ったか、それはどこへいく
か」講師 上島 武先生大
阪経済大学経済学部教授57
回生
12・12 第5回百周年記
念事業計画委員会 於ある
が 石井会長 有賀委員長
ほか出席
平成4年1・14 オリンピ
ック出場壮行激励会 上原
三枝さん(93回生) アルベ
ールビルへ(スピードスケ
ート) 於学校 石井会長激
励のことばと贈

「挨拶—」章編三絶」の心意気—

学校長 持田 明 夫



今年は「壬申」の年、い
わば「さる年」であり、当
諏訪地方にとりましては、
七年に一度の「諏訪大社例
祭」・「御柱祭」にあたりま
す。つい先日、上諏訪駅
頭に響きわたる木遣りに魅
入られたように、上社の「山
出し」見物に出掛けました。
勇壮な「木落し」、水しぶき
を上げる「川越し」を目の
当たりにしながら、いわゆ
る「諏訪人」の気概を思う
とともに、百年の伝統に支
えられた「諏訪中」・「清陵高
校」の校是「雖千萬人吾
往矣」が、私の脳裏を去
来するのであります。
初めて同窓先輩諸氏にこ

の紙上から挨拶申し上げ
てから、早や四年目を迎え
ます。その間さしたる事も
なし得ないまま今日を迎
え、気恥かしい思いの私
であります。百年の伝統をしっかりと支え
てくれるものと信じている
ものであります。
ここ校長室には、激しく
使い古した一冊の「英語辞
書」が「章編三絶」の四
文字とともに展示されてお
ります。52回生の某先輩が
在京時代すりきれるほど使
い切った愛用の辞書であ
り、「章編三絶」は、孔子が
愛読書易経を綴じ紐が三回
すりきれるほど徹底的に読
み込んだ故事を表す言葉で
あります。後輩への無言の
教えとして長くこの校長室
におかれていたのでありま
す。ところが先日その某先
輩が見えまして、「当たり前



のことが展示されているの
は、生き恥をさらしている
ようで落ち着かない」と申
されて、残念ながら引き取
って行かれました。「章編三
絶」が当たり前の現「清陵
生」とも思えないのであり
ますが、某先輩の言をその
とおり全生徒に伝え奮起を
うながす私でありました。
上原三枝先輩のアルベール
ビル冬期オリンピックで
は、生き恥をさらしている
の活躍、三月末端艇部全国
選抜競漕大会四位入賞(女
子カジ付フォア)、野球部の
秋季地区大会制覇等、先輩
諸氏の励ましを得て「武の
道」も大いに燃えている後
輩達であります。今後とも
宜しくご鞭撻賜りますよう
お願い申し上げます。
お願ひ申し上げます。

水晶時計

株式会社 **カカホ**

長野県茅野市宮川4900 ☎(0266)72-6111(代)

アメリカ工場……ロスアンゼルス バンコク工場……タイ国バンパイン工業団地

自動組立機の

ミロエニヤリグ株式会社

長野県茅野市金澤5387-1 ☎(0266)72-6551(代)

代表取締役社長 花岡 健雄 (46回)
代表取締役専務 立木 嘉彦 (46回)
常任監査役 小川 善弘 (46回)

みずうみの国 古き神の国
すわの風土の昇華とていいうべき
諏訪の味噌—
ひかり味噌のかぐわしい香りと
まろやかな味は何物にもかえ難い

市川一雄(56回)

ひかり味噌株式会社

長野県諏訪郡下諏訪町4848-1

電話(0266)27-8848(代)

林 善八郎 (58回) 林 博優 (64回)



寒仕込みの限定品天然味噌「雅」をふ
るさとの季節の便りに御下命下さい。
最寄りの郵便局で「ふるさと小包便」をご利用下さい
カップ入みそ「雅」(1kg×6個) 4,500円
(申し込み番号17-051-A・郵送料・消費税込み)
振替口座 長野5-25932・ひかり味噌株式会社

③施設環境の整備 植栽と
②祝賀会 同日、大体育館
この総会は七年度の定期
総会を兼ねるものとす
る。

⑦ビデオの制作 諏訪と清
陵高校の記録紹介のビデ
オを東京支部が中心とな
る。

「ああ博浪の槌取りで」
と歌い出される博浪とは、
秦の始皇帝が東方を巡遊し
て黄河下流の博浪沙に來た
時、自国を滅ぼされた韓の
張良が、百二十斤の鉄槌で
皇帝を襲撃した故事に基づ
くものです。第二校歌の中
には、このほかにも、「ああ

麗水に金砂あり、崑崙玉を
出だすとか」と、雲南省に
ある麗水(金沙江)やチベ
ット高原の北に横たわる崑
崗(コンロン山)も歌われ
ています。そもそも、作詞
者の中島喜久平先輩をはじめ
とする明治大正昭和初期
の諏中生の教養は、漢詩漢

文がその土台をなすもので
今創立百周年を迎えるに
当たって、我々の愛してや
まない第二校歌のルーツを
求めて、悠久のロマンを秘
めた中国の地を訪れ、万里
の長城に立つて声高らかに
「ああ博浪」を歌おうではあ
る。

委員会が企画したものを、
JT Bが主催するという形
方は、同封の集書を七月末
までに、お送りください。
中国の事情や参加者の希望
年々春になる予定です。今
から楽しみにしていってくだ
さい。

りませんか。平成七年五月
二十日頃の一週間、中学高
校生の昔にかえって同級生
相集い、楽しい旅行を実現
したいものです。
この旅行は、当記念旅行
委員会が企画したものを、
JT Bが主催するという形
方は、同封の集書を七月末
までに、お送りください。
中国の事情や参加者の希望
年々春になる予定です。今
から楽しみにしていってくだ
さい。

創立百周年記念事業 大綱決まる

平成二年秋に発足した創
立百周年記念事業計画委員
会(委員長・有賀裕・50回)
は、全国伝統高校へのアン
ケートをはじめとして、広
く会員諸兄の意見を集め、
有意義かつ可能な事業を答
申した。その結果、平成四
年二月二日の幹事会にお
いて、創立百周年記念事業
の原案が以下のように採決
され、本年度総会での承認
を待って、実行委員会が正
式に活動を開始する予定であ
る。なおその時点で、計画
委員会はその任を終えて解
散することとなる。

①記念総会 平成七(一九
九五)年十一月五日(日)
母校小体育館にて。なお
この総会は七年度の定期
総会を兼ねるものとす
る。

②祝賀会 同日、大体育館
この総会は七年度の定期
総会を兼ねるものとす
る。

③施設環境の整備 植栽と
②祝賀会 同日、大体育館
この総会は七年度の定期
総会を兼ねるものとす
る。

⑦ビデオの制作 諏訪と清
陵高校の記録紹介のビデ
オを東京支部が中心とな
る。

記念中国旅行のお知らせ ——第2校歌のルーツを訪ねて——

日次	月日(曜)	発着地	発着時間	交通機関	スケジュール (宿泊地)	別注
1	月 日 ()	日本発 上海着		航空機	上海着後、ホテルへ (上海泊)	○
2	月 日 ()	上海発 鄭州着	午後	航空機	出発まで上海市内観光(豫園・ 五仏寺など) 午後、国内便にて鄭州へ (鄭州泊)	○○○
3	月 日 ()	鄭州	片道 約90km	バス	終日：原陽県(博浪沙) 及び鄭州市内観光 (商城遺跡) (鄭州泊)	○○○
4	月 日 ()	鄭州発 北京着	午前 (約2時間)	航空機	午前中、国内便にて北京へ 北京到着後、市内観光(故宮・ 天壇公園など) (北京泊)	○○○
5	月 日 ()	北京		バス	終日：郊外観光(万理の長城・ 明の十三陵など) (北京泊)	○○○
6	月 日 ()	北京発 日本着	午前	航空機	帰国の途へ	○

機！ 諏訪清陵高等学校同窓会諸兄姉に告ぐ！

万里の長城で校歌を歌おう！

記念旅行委員会
かつてこれほど壮大な夢を描いた同窓会が他にあったろうか。
『ああ博浪』の校歌を持ち、「越々武夫の面影」を追う、我等諏訪
清陵高校同窓会のみのできる快挙であろう。
幾世紀のロマンを秘めた悠久の大地に立ち、黄沙をわたる蕭索
たる風に頬を紅潮させ、歴史を刻む城壁に登って肩を組む、数百
の友を想像してみたい。
渺茫たる彼方に、「金砂あり」という麗水、「玉を出す」という
崑崙を望み、「乱麻を断つ英傑」が警鐘の鉄槌を振ったかの博
浪沙を訪ねて、「山をも抜かん意気」と「海をも呑まん慨」を高ら
かに歌い上げよう！
再び言う。創立百周年を機に旧友相集い、奮ってこの夢に参加
して、青春の日に涙を流し腹の底から歌ったあの校歌を雄叫び、
清陵だからこそ抱けるこの雄大な夢を、万里の天に描き出そうで
はないか！

平成3年度諏訪清陵高校同窓会決算書 平成4年度諏訪清陵高校同窓会予算書

科目	平成3年度決算額	平成4年度予算額
前年度繰越金	2,013,487	2,169,496
入会金	1,083,000	1,080,000 ¹⁾
会費	3,610,000	3,600,000 ²⁾
基本財産収入	7,626,143	5,000,000
雑収入	466,984	300,000
合計	14,799,614	12,149,496

科目	平成3年度決算額	平成4年度予算額
会議費	263,513	300,000
定期総会費	463,911	600,000
旅費	276,260	300,000
人件費	806,400	850,000
需用費	142,484	200,000
役務費	365,661	450,000
慶弔費	538,570	500,000
記念品費	244,110	280,000
委員会費	269,209	0 ³⁾
繰出金	1,600,000	4,600,000 ⁴⁾
基金繰入金	7,660,000	4,000,000 ⁵⁾
雑費	0	10,000
予備費	0	59,496
合計	12,630,118	12,149,496

- 備考：1) 新入生より1人3,000円
2) 終身会費(昭和62年度新入生より、1人10,000円)
3) 100周年記念事業特別会計へ移行
4) 会報特別会計、清陵会館維持費特別会計、100周年記
念事業特別会計、名簿特別会計、百年史編集特別会
計、ビデオ制作特別会計、勸募訪清陵会へ
5) 同窓会基金へ

諏訪清陵高校同窓会基本財産目録 (平成4年3月31日現在)

基本財産 117,760,000円

1. 自由金利型定期預金

預入先	金額
諏訪信用金庫	74,740,000円
八十二銀行	31,480,000円
さくら銀行	11,540,000円

2. 有価証券 なし

平成3年度

同窓会報特別会計決算報告

(平成4年3月31日現在)

収入額 2,276,340円

〈同窓会一般会計より繰入金・広告収入等〉

支出額 2,225,165円

〈会報17号・15,000部印刷費、郵送料等〉

差引残高 51,175円

〈次年度へ繰越〉

平成3年度

清陵会館維持費特別会計決算報告

(平成4年3月31日現在)

収入額 591,460円

〈同窓会一般会計より繰入金等〉

支出額 133,236円

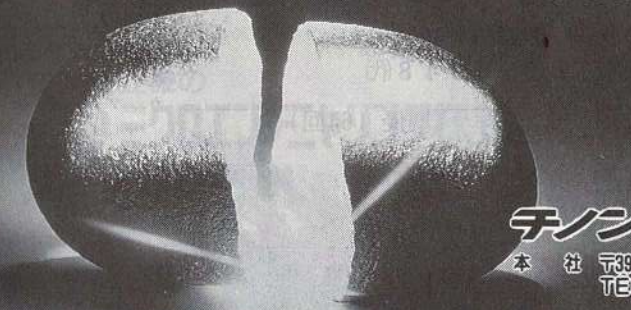
〈営繕費・備品費等〉

差引残高 458,224円

〈次年度へ繰越〉

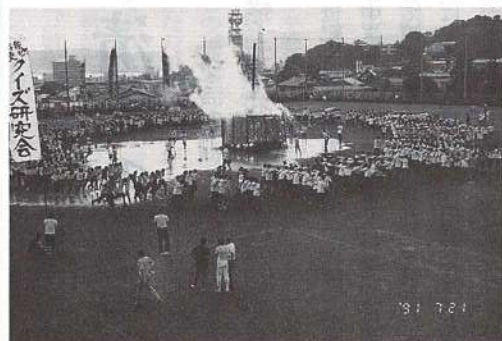


数々の世界初を生み続ける技術開発力



チノン株式会社

本社 〒332 長野県諏訪市高島1-21-17
TEL 0266(52)2700



ライオン会

〔転出〕大森清幸(国語) 松ら、古山幸年(校用技師) 本県ヶ丘へ、吉田(国語) 諏訪建から、木下芳英(理 茅野へ、大矢均(社会) 夢 科、清水昭雄(英語) は特 科へ、高木昭彦(社会) 二 例講師、小口裕一(国語)、 葉へ、鈴岡潤一(社会) 富 小松一信(理科) は非常勤 士見へ、赤羽建利(数学) 講師の総勢67名でスター ト。

田川へ、諏訪繁範(英語) 主な学校行事、歓迎乗艇 須坂へ、矢島富士雄(保体) 4/9、4/18、盆地一周 小諸へ、木下茂(校用技師) 駅伝4/25、清陵祭7/17 諏訪建設事務所へ 7/19 端艇大会9/24、二 谷東から、小野文雄(国語) 湖周マラソン10/24、二年 松本県ヶ丘から、田中延男 研修旅行11/10、11/13、 (社会)岡谷東から、三井忠 入試センター試験1/16 人(社会)箕輪工業から、 1/17、スキー教室1/ 百瀬公人(英語)松川から、 27、1/29、卒業式3/8 勝野麻理子(保体)坂城か (教頭)守矢武久

この財団は、昭和五十年 長・通学区内支部長・学校 長、監事は同窓会監事、幹 創立八十周年記念事業の一 事(書記)は学校職員によ (進学指導助成を含めて)に 環として、母校の教育活動 の支援を行なうために、会 表裏一体の実を失わないよ うになっております。

一、育英事業 発足後、教育活動の支援 必要と認める事業 充実のため、校舎改築記念 三、三沢勝衛先生記念文庫 事業・予算の概要は次のよ うになっております。

四、学術・文化に関する講 演会の催し 事業予算約三百九十万 円、収入内訳は基本財産取 入二百万円余・同窓会本会 窓会長、理事は同窓会副会 他。

その事業目的は、 二、高校教育の振興のため 必要と認める事業 三、三沢勝衛先生記念文庫 の運営 四、学術・文化に関する講 演会の催し 演会のため、校舎改築記念 事業・予算の概要は次のよ うになっております。

事業予算約三百九十万 円、収入内訳は基本財産取 入二百万円余・同窓会本会 窓会長、理事は同窓会副会 他。

財団法人諏訪清陵会の現況

原稿づくりからのお手伝い

自費出版のことなら おまかせください。

人生一冊の本を皆様へマイブック制作のおす すめをしてまいりましたが、近ごろ多くのかたが、 いろいろの本をおつくりになっております。 風化しつつある体験や、残すべきふる里の歴史 や、人びとの生活を本にまとめておられます。マイ ブックのご相談は確かな技術と実績のある当社 におまかせください。



同年会誌・同級会誌なども ご用命ください。

中央印刷株式会社

〒394 長野県岡谷市川岸一丁目1-20
☎(0266)22-5551代 ファクシミリ(0266)24-0304

株式会社 中央企画

〒392 長野県諏訪市西賀赤沼1844-1
☎(0266)58-2384代 ファクシミリ(0266)58-2091

学校だより

新校舎全面改築よりすでに四年目を迎えています。当初清水ヶ丘に突然出現した四階建の殿堂は周囲の自然に多少奇異な感じを与えたきらいがありました。が、三年を経過した今、違和感もかき消えて堂々とした威容を誇って諏訪の平を睥睨しているかに見えます。が、地元住民からは高い建物と急坂な石垣が特別に印象深いのか、「石垣高校」と呼んでいるとか。

幸い本年度の環境整備事業を受けて植栽を大幅に増やすことができました。前庭にはつつじ、皐月、ピンカミノールを、名彫「鐸」す。「授業最優先の原則」の

下、質・量の両面に工夫を加え手作り教材で補強充実を画り、全てで生徒個人がチェックし弱点克服をする。自治の権化であった学友会活動にも最近気になることがあつた。総会が連年々増加し、北は北海道から南は沖縄まで極めて広く多様です。また増加傾向の強いのに推薦入学がありま す。指定校推薦希望者45名、一般国公立推薦17名、私立23名を数えます。

今年度の卒業生は394名と本校歴史始まって以来の人数であります。従って多様なニーズを持った生徒が一堂にひしめいていることになり、これを一定方向に向かせ大きな成果を納めた当該学年に敬意と感謝を申し上げます。女子の比率は40・7と昨年並みになります。

希望者392名(99・5%)就 職希望者2名、国立大学希 望延人数36名希望大学数53 校、公立大同39名大同10 校、私立大同別名大同137 校、私立大同別名大同137 務長

の周囲には小型のどうだんを配し春夏秋冬の色合いを一層深めることでしよう。校舎の周りには銀杏、石垣には葛を這わせる計画です。今後皆さんが母校を訪れる折にはきつと心を和める働きをしてくれることと しよう。

さて前号でもお知らせし ましたが本県の学力向上推 進事業も二カ年が過ぎ、新 たに本年度六校の指定校を 増し計三十校を中心に基礎 力充実、応用力アップを目 標に各校積極的かつ特色 を持たせた取組みをし、 徐々ではあるがその成果が カウントでき一同多少なり と胸をなでおろしている ところです。

本校では各学年が学力向 上に向けて前向きな姿勢で 創意工夫する中で計画立案 をしその結果をコンピュ ータを駆使して分析し役立 ています。卒業生も後掲す るような好結果を納めたこ とは大変喜ばしいかぎりです。「授業最優先の原則」の 気持で受け止め、日々の実 践の戒にしています。

学友会活動について一 言。自治の権化であった学 友会活動にも最近気になる ことがあつた。総会が連年 々増加し、北は北海道から 南は沖縄まで極めて広く 多様です。また増加傾向の 強いのに推薦入学がありま す。指定校推薦希望者45 名、一般国公立推薦17名、 私立23名を数えます。

今年度の卒業生は394名と 本校歴史始まって以来の大 人数であります。従って多 様なニーズを持った生徒が 一堂にひしめいていること になり、これを一定方向に 向かせ大きな成果を納めた 当該学年に敬意と感謝を申 上申し上げます。女子の比 率は40・7と昨年並みにな ります。

希望者392名(99・5%)就 職希望者2名、国立大学希 望延人数36名希望大学数53 校、公立大同39名大同10 校、私立大同別名大同137 校、私立大同別名大同137 務長

〔平成4年度入試結果〕

卒業生進路状況					
卒業年月	進 学			就 職	
	希望者	進学者	%	希望者	就職者
平成4年3月	389	216	55.5	5	5
平成3年3月	356	185	52.1	4	4

私 立 大 学				公 立 大 学			
合格者数	3年度同	合格者数	3年度同	合格者数	3年度同	合格者数	3年度同
7(1)	4(3)	3(2)	6(4)	15(9)	13(7)	15(9)	13(7)
10(8)	4(4)	13(11)	10(8)	23(9)	22(9)	23(9)	22(9)
5(1)	4(4)	22(17)	15(10)	8(4)	9(6)	8(4)	9(6)
6(2)	1(1)	6(4)	4(1)	4(2)	3(2)	4(2)	3(2)
3(1)	1(1)	28(19)	18(13)	1(1)	1(1)	1(1)	1(1)
5(4)	5(3)	4(4)	2(2)	4(3)	4(3)	4(3)	4(3)
17(7)	4(1)	20(12)	14(9)	2(1)	2(1)	2(1)	2(1)
7(4)	10(8)	245(139)	214(131)	14(8)	24(18)	14(8)	24(18)
4(2)	11(7)	487(287)	388(246)	2(1)	17(89)	2(1)	17(89)
3(1)	7(4)	42	43(2)	4(2)	3(3)	4(2)	3(3)
1	18(12)	9	8(2)	2(2)	3(3)	2(2)	3(3)
	23(16)	2		4(3)	5(2)	4(3)	5(2)
				7(6)	6(3)	7(6)	6(3)
				9(3)	6(4)	9(3)	6(4)
				1(1)	1(1)	1(1)	1(1)
				4(2)	4(2)	4(2)	4(2)
				9(5)	3(1)	9(5)	3(1)

4/15現在 *表中()は過年度生の内数

国公立大 学				私立大 学			
合格者数	3年度同	合格者数	3年度同	合格者数	3年度同	合格者数	3年度同
2(2)	0(1)	15(9)	13(7)	23(9)	22(9)	23(9)	22(9)
2(1)	3(2)	8(4)	9(6)	8(4)	9(6)	8(4)	9(6)
10(7)	9(6)	4(2)	3(2)	4(2)	3(2)	4(2)	3(2)
5(1)	8(4)	1(1)	1(1)	1(1)	1(1)	1(1)	1(1)
6(2)	3(1)	4(3)	4(3)	4(3)	4(3)	4(3)	4(3)
3(1)	1(1)	1(1)	1(1)	1(1)	1(1)	1(1)	1(1)
5(4)	4(1)	2(1)	2(1)	2(1)	2(1)	2(1)	2(1)
17(7)	12(10)	14(8)	24(18)	14(8)	24(18)	14(8)	24(18)
7(4)	5(5)	2(1)	1(1)	2(1)	1(1)	2(1)	1(1)
4(2)	4(3)	2(1)	1(1)	2(1)	1(1)	2(1)	1(1)
3(1)	6(2)	4(2)	3(3)	4(2)	3(3)	4(2)	3(3)
1	1(0)	3(3)	3(3)	3(3)	3(3)	3(3)	3(3)
	2(2)	5(2)	6(3)	5(2)	6(3)	5(2)	6(3)
	4(3)	3(3)	6(3)	3(3)	6(3)	3(3)	6(3)
	7(6)	1(1)	1(1)	1(1)	1(1)	1(1)	1(1)
	9(3)	4(2)	4(2)	4(2)	4(2)	4(2)	4(2)
	1	196(101)	183(104)	196(101)	183(104)	196(101)	183(104)
	9(5)						

特集

清陵の理想を求めて

親子三代のそれぞれの時代における生きがい

ほぼ一世に及ぶ多くの気などの事情で残念ながら卒業生の中より、親子孫三代慮された方もおります。ここに寄稿されているもだ同窓生に自分にとつてのは、大正時代の草創期に清陵は何かの思いで、寄学んだ親の世代、終戦後の稿をいただいた。なお、病昭和二十年代の子のそれ、世界各国に足跡を伸ばし活

躍しているありのままの姿を伝えている。三代の栄耀なることばもありますが、親から子、孫へと伝えられていく歴史の中には、それなりに外からうかがいしることのできない、何ものかがあるのではないかと。また、そのような貴重な三代の卓見と奔走の生きざまを公開すること、同窓生への問題提起となるのではと考え編集しました。

辰野町

伊藤重雄 (28回生)
伊藤隆一 (58回生)
伊藤隆介 (96回生)

生々流転八十四の春

28回生 伊藤重雄

私が入学したのは昭和二年の御柱祭の年であった。生まれて三回目の御柱、今年も御柱で八十四歳となる。が盛んとなり新しい思想と学生当時の記憶もだんだん



対するよう左翼の運動も一部ではさかんであった。特高警察のことを聞いたのも生徒の校外での行動につ

て監視し、洋食屋における飲食や湖岸で女生徒とのデートなど「トンデモ」ない行動として矯風会の席上で釈明を求められた。デモクらしイと左翼との間に戸惑いながら矯風会に対する批判が広がり、夜を徹しての

生々流転八十四の春

現在の清陵の中から

96回生 伊藤隆介

清陵教師紳名考

58回生 伊藤隆一

小学生の頃、父から諏訪の名物先生の話聞いた。マムシ、絵画のゼツチャン、牛山伝蔵先生、菊池先生の逸話は子供心にある感動をおぼえた。父を訪ねてきた同級生が東大の先生と聞

今期、僕は学友会執行部副に就いた。べつにこのとでどうこうでもないが、これは、二年間も清陵に居ながらにして個人をもてあました結果ともいえる。幼少の頃から、祖父、父、共に清陵の出であることは知っていた。しかし、特に「清陵へ」と強いと思うもの、若しくはそれ以上に、それを取り巻くものが生か

諏訪市

木川千年 (29回生)
木川俊文 (62回生)
木川由布子 (92回生)



思い出すことも

29回生 木川千年

私は大正十二年の入学である。校舎は明治三十年で、旧制諏訪中学校の時代に現在地に新築移転されて

してのばすのではなく、拘束つもりはないが、実の所どされていくのかもしれない。清陵一既に、い。まるで酒を呑むうちにが終った。最後の一年。吞まれたかのようだ。僕自身人生の一大行事、受験に役

から幾度も増改築された階段状の木造建物であった。次に長男は昭和二十七年に現在の校庭の場所に全面改築された校舎に、昭和三十一年に清陵高校生としての入学である。孫は昭和六十二年四月の入学で、平成元年三月の卒業であるので、現在の白亜の鉄筋校舎と旧校舎に半々位入ったことになる。どうも、親子三代が清陵の校舎と歴史を共にしたとも言える。

私の時代は男子だけの中学校で、二百人入学して五年後の卒業生は百五十一人であった。長男の頃は高校となり、男女共学で女子生

EPSON

ハイテクとの正しい交際。



パーソナルコンピュータ
エプソン PC-386 NOTE AE

セイコーエプソン株式会社

〒392 長野県諏訪市大和三丁目3番5号 ☎0266-52-3131 (代表)

この任文桓先生は子供の時一人日本に来て苦学して京都の中学、岡山の高校更に東大法学部卒業高等文官試験に合格の上朝鮮総督府の役人になった秀才です。私がどうして親友になったかと申すと私は終戦まで韓

「あなたは韓国の岩波先生になって下さい」と申しました。私はあんな大人物にはなれません」と謙遜して申されました。

岩波先生の生家跡地には学習院大学長阿倍能成先生の筆で「低処高思」の石碑が建立されて居り私はその「拓本」を任文桓先生に贈り

清陵に何を期待するかのテーマに対して、手塚治虫のマンガを例にしている。科学の進展、巨大な技術、政治、戦争などさまざまな分野の中で一貫したマンガという媒体を通じてそれぞれの時代に批判と警告を投げかけている。

「鉄腕アトム」は科学文明の夢と破壊力の恐ろしさを示した。営利主義と結び

清陵に何を期待するかのテーマに対して、手塚治虫のマンガを例にしている。科学の進展、巨大な技術、政治、戦争などさまざまな分野の中で一貫したマンガという媒体を通じてそれぞれの時代に批判と警告を投げかけている。

私の心の支え

現代日本の産業は、エレクトロニクスによる管理技術、バイオテクノロジーによる技術革新など、次々と生まれる新しい科学の波への対応に日夜追われている状況です。私も同じように

91回生 名取裕孝

諏訪第一期岩波茂雄先生を偲ぶ

諏訪26期生 名取寛治

富士見町
名取寛治 (26回生)
名取孝三 (59回生)
名取裕孝 (91回生)

清陵に期待するもの

59回生 名取孝三

今学力問題が問われているが大学入試によって問われる学力、すなわち受験学力は、私の高校時代と息子の高校時代と大きな差異があったのだろうか。知・徳・体の調和のとれた発達を図り、個性豊かで、よりよく社会に貢献できる人格の育成を目指す教育の営みこそ清陵がとって来た教育の本道であったように思う。

ただ一言物申せば、私達

の時代は宿題があるといつても「勉強なんか後にして早く風呂をたけ」と親はいったものだ。いまは「勉強がある」といえば、親は「はあーどうぞどうぞ、あとはお母さんがすべてするから」まさに勉強さまのお通りである。その結果どうか。大学を出ても誤字が多く、言葉も使えず、礼儀作法はなく、人生観はさらさら持ち合わせない者が相当にいるのではないかと思う。私達の時代の方が勉強より大事なものの、人生の一大事を知っていたように思う。あるいは持っていたように思う。

FACTORY AUTOMATION 時代をリードする
エグロのCNC(コンピュータ)工作機械

株式会社 江黒鉄工業

社長 江黒泰生 (58回)

本社工場：岡谷市御倉町8-14

☎ (0266) 23-5511 (代)

常務取締役 佐藤国夫 (62回) 常務取締役 江黒照男 (65回)

営業部主任 小松真知男 (70回) 総務課 秋山由美 (89回)



仙岳 料理 天ぷら

代表 小口達夫
小口慶一郎 (84回)
小口勝子 (87回)

諏訪市湖岸通り5-17-6

TEL 0266 (58) 3515

徒の入学は六名であったと。昭和三十二年四月二十日の招か。それが孫の入学の時三百五十一名のうち、女子生徒は百名近くである。変われば変わったものだ。さて、次に私の中学校五年間の今でも印象に残っている二、三のことを振り返って見たい。

入学した大正十二年の九月一日は関東大地震で、丁度その日は赤砂で全校の水泳大会であり、砂浜にいたので余り揺れは感じなかった。次の年の二月四日には、寄宿舎の火災があつて隣の地下のような建物の一階にいた我々が、大慌てで外に飛び出した時は、もう手の施しようもなかった。

清陵への思い

62回生 木川俊文

家族と共に米国ロスアンゼルスに五年半駐在した。ただその答えは、これから由布子が見出すものと思う。

「清陵の理想」と「大学受験」という現実の狭間で苦悩しており、それは又、長野県の高校全体の苦悩でもあるらしい。しかし東京に見られる私立型受験一辺倒の学生生活を見る時、清陵の理想を求める姿には、何か光る物があり、価値ある

「高校生活は諏訪で」と私が勝手に決め、東京の帰国子女校入学の手もあったが、いろいろ理由を付けてかなり強引に諏訪に帰した。自分の三十三年前の清陵生活を振り返っても、特別に何かがあつた訳ではないが、諏訪に帰すことの善し悪しを考へる前に清陵に対する思いを子供に伝えたい

「清陵の理想」と「大学受験」という現実の狭間で苦悩しており、それは又、長野県の高校全体の苦悩でもあるらしい。しかし東京に見られる私立型受験一辺倒の学生生活を見る時、清陵の理想を求める姿には、何か光る物があり、価値ある

顧みる

92回生 木川由布子

四年前の会誌を読み返すと笑ってしまう。どの文章からも独特の気負いと、不思議な高さが感じられるからだ。その中に私の書いたものもあるのだから世話はない。

最後に。清陵への、私の思いはあの旧校舎と結びつく。本日は今もどこかに建っているのではないかと、この間隔は私の中で妙な現実感を帯びている。

「清陵の理想」と「大学受験」という現実の狭間で苦悩しており、それは又、長野県の高校全体の苦悩でもあるらしい。しかし東京に見られる私立型受験一辺倒の学生生活を見る時、清陵の理想を求める姿には、何か光る物があり、価値ある

最後に。清陵への、私の思いはあの旧校舎と結びつく。本日は今もどこかに建っているのではないかと、この間隔は私の中で妙な現実感を帯びている。

☆鋳鉄バルブ O.E.Mメーカー
☆輸送用機器・製造
☆専用工作機械・治工具・設計製造

株式会社 ヒカリ

諏訪市中洲586番地

TEL 0266-52-0500 (代)

代表取締役 吉田英登 (59回)



有限会社 中島塗料店

代表取締役 中島伸一 (59回)

長野県諏訪市中洲5691-6
TEL 52-6070 FAX 52-6072

り約三十年ずつの歳月を経ながら、平和を模索しはじめた時代に学んだ私、そして昭和元禄の泰平に学んだ子供時代の背景は違ってもやはり今となってみれば清陵で、青春のひとときを過ごせた良かったと思う感じが益々強くなっている。此頃である。

学問の得意の者、不得意の者いろいろであるがやはり清陵でなければ味わえないものは生徒の自主的活動により営まれる「清陵祭」「諏訪湖一周マラソン大会」「諏訪湖一周マラソン大会」など「コンパ」地方会等の各種行事への積極的参加ではないかと思う。

これらへの積極的参加、そこから始まる友達とのつながりが清陵で得られる最も価値あるものであり、これらへの参加なくしては清陵へ入る意味は無きに等しい。

孤高天に舞う純白のつるもまた良いが、友情と協調な経験でした。羽目をはずして、自己をさらけ出せる

清陵に残り、続いていくもの
21世紀を切り開き、若き日の理想とロマンを求める賢人の一人でも多くの輩出を期待する。

清陵での体験の一つひとつは、どこか高校にもあるものかもしれない。しかし、一つとして独特でないものはなく、今も強烈な印象として残っています。

「クラブ活動」高校生活は、勉強よりもクラブに費やした感じがする。軟式テニスをはじめ、熱中のある暇さえあればテニスコートに居を占めていた。試合があるときは、学校を休めるため遠征は大歓迎であった。体力養成の点で、授業でのマラソン、伝統行事の諏訪湖一周マラソンも欠かせない。

また、生物部での研究発表のため、清陵祭前の一カ月は大変であった。納得のいく準備は、確実に時間を必要とした。校外から来る見学者へのQ&Aづくりは帰宅もまっならず、部屋に泊まり、風呂は上諏訪駅の露天風呂に厄介になった。露天風呂に厄介になった。こうしたクラブ活動などのおかげで、大学四年間、体育会の軟式テニスで頑張ることができた。ついでに七帝(大)戦の個人戦で何とか優勝することができたり、鍛えられたなあと思えている。

「これからの清陵」校舎も新しくなり雰囲気もそれなりに変わっていくと思うが、温故知新、昔ながらの清陵の心は続いてほしい。伝統の重みは年々感じられるようになる。そのためには、生徒の心を高揚させる習との調和を期待して清陵も活発に存続することを期す。



岡谷市

林 恒 幸 (29 回生)
林 忠 利 (59 回生)
林 寛 (91 回生)

恩師の印象

29 回生 林 恒 幸

私は幸いにして29回生であり後継者長男忠利59回生次男孝65回生孫寛91回生にて三代に渡り清陵卒業生の好運に恵まれている。

自主的行事への積極的参加

59 回生 林 忠 利

私は八十二才の老骨の現語漢文の菊地先生の父親に仕える厳格な日常生活ぶり、博物の牛山伝造先生、数学の三輪玄蔵先生、剣道の好運に恵まれている。

父達の学んだ木の香もう改築期に再び、子供が入学し巣立つてから早くも四年の月日が流れ、懐旧の情一入である。

大正デモクラシーの吹きすさぶ激動期に学んだ父よ

の河西健児先生、地理の三澤先生、歴史の石川税先生、其他学校生活に欠くことのない小使の岩さ(小松岩吉氏)靴屋の爺さん(杉谷清七氏)。

アルプスから湧き出る良質の天然水を使用し
よりフレッシュなお漬物をお届け致します

新工場稼動 JAS認定工場

野沢菜漬・漬物・佃煮の御用命は

株式会社 マルモ高木

取締役会長 高木 常雄 (33回)

本社 〒394 岡谷市今井1870 ☎0266-22-2619(代)

塩尻工場・営業本部 〒399-07 塩尻市広丘郷原1000-7 ☎0263-53-4713(代)

長野営業所 〒380 長野市東和田南沖784-3 ☎0262-44-2720(代)

代表取締役 新村良雄 (四九回)

新村 隆 (八五回)

下諏訪町四角 (〇二六六) 二七七八五〇五

不二屋もなみ

地元とともに

諏訪信用金庫

会長理事 山岡 利平 (28回)

理事長 宮坂 久臣 (49回)

本店 長野県岡谷市幸町7番41号

TEL 岡谷(0266)23-4567

ボールとバスケットボールを教えて頂きました。私も山傳造先生菊池先生等の講義は大したものぞ知識を得るには充分でした。当時の「在任」が熱心でした。私も一橋大学で選手をして夏休みに帰ったとき取組中のコーチをして県下で三回優勝しました。

学問の方では三沢勝衛先生が地理の受持でしたが科学の本質を解いて頂きまし

伝は第六回生で(昭和四十二年没)私が三代目になる。四代目の子供まで随分長い期間、学校にお世話になったものと思う。父までが旧制、私からは新制であるが、我々の世代は新旧のつなぎの感じがする。

戦後すぐ小学校に入学し新しいカリキュラムで教育を受けた世代で、クラスに女性二人(長田君と古畑君)在室しただけの時代ではあったが、完全に戦後の学生といえる。しかし校内

のにも代えがたいものだった。私は、こうした個人の鍛練と友人との協力という二面において、清陵が自分に良い環境を与えてくれたことに感謝している。勉強しようと思えばいくらでも勉強でき、そして放課後は思存分クラブ活動に打ち込めた。私から三浦メートル以内に同期生柳平忠、神林三男、鳥居成道、藤森邦俊、金沢正巳、宮坂栄一、松井利夫、故牛山正雄、故藤森(鈴木)敏がいて何れも優秀な生徒達でした。今でも印象にある諸先生は高橋貞一郎、沼田重三、長坂明治郎、高谷澤、蓮田善明、柳沢英夫、三沢勝衛、牛山伝造諸氏であり確固たる教育理念の持ち主でした。とりわけ強烈の印象が残るのは蓮田善明、彼は諷中在任二年のキャリアで白面の青年教師、例えば正岡子規の文学に就いての講義に感銘を覚えました。彼は将校として戦争末期終戦の日中国の地にピストル自決をされました。同級生林会治と同席した時は数学が得意で望遠鏡を禁じ得なかつた。三沢勝衛は私の母志(旧姓小島)の実家小島弘(当主旧姓三井)に借家しておりました。諷中石垣横です。そんな訳で特に親

窪田宗雄先生の英語は印象深かったと思います。



つなぎの世代

親子の三代を通して、ということですが、私の祖父、

三年前に卒業した清陵での生活を思い出してみる。異論もあるだろうが、学習とはあくまで個人的なものであり、私には考える。そして、動を引くとほとんど何も残らない三年間だ。しかしそれは非常に充実した日々であった。一度も授業を欠席しなかつたし、クラブ(吹奏部)にもほぼ毎日参加し、三年の八月まで続けてい

昭和の初めと諷中
「大学は出たけれど」松竹映画「何が彼女をそうさせたか」藤森成吉作「酒は涙か溜息か」中山晋平等大評判大反響を見る時代でした。各地で教育者の減俸、中等教員の就職難が進行中でありました。ウォール街で株式大暴落があり製糸業直撃を含む経済不況が日本中に吹き荒れておりまし

祖父(俊男)74才、父(茂雄)48才、孫(栄太)17才、清陵三代の内訳である。おかげ様で三人健在、清陵三代をつくづく有難く思う。同窓諸兄の中にも男子に恵まれず夢を果せなかつた方も多いと思う。昔は男女共学ではなかつたから、又多くの諸兄は卒業後諷訪を離れていたので、私共の様にじつと諷訪に留った者の特

近感を持ちました。母の弟故浅輪三郎(小島)十五回生は一高東大を経て鞍山製鉄所(後の昭和製鋼所)所長大戦後西山弥太郎に招かれて川崎製鉄千葉工場の創立初代工場長を勤め、当時は千葉天皇と言われた人です。昭和四年七月二十四日尖石遺跡発掘に伏見宮博英殿下ご来謁あり、兄栄一(三回生)に参加のご沙汰あり恭々した。主任者故宮坂英武共々強く考古学に

とての精神を語ってくれた。時代は変わっても精神は安条約に関する学友会の行動、様々な面で緊張の時代であった。自治等を叫んでいても高校生の幼さと限界も感じただけである。清陵時代は決して成績は良くなく、今程の受験地獄でもなかつた。欲もなかつたのかも知れない。三年間端艇部でボートに明け暮れた。ウシマサ(牛山正雄)先生には息子同様世話になった。担任のウマカ(西之原)先生はそんな自分を認めていただいた。大森栄先生(校長)はとりわけ端艇部をかわいがってくれた。そして卒業後も長善館にいらした。清陵時代の三年間生徒だけで共同して何かをやろうという精神を学んだ様に思う。クラス運営、クラブ活動をして学友会活動すべてがこれに通ずるだろう。そんな中でS35年入学早々の学友会館の火災消失、日米

清陵への熱き思い

66回生 藤森茂雄

学友

96回生 藤森栄太

茅野市

- 矢嶋 今朝英 (31回生)
- 矢嶋 徹英 (65回生)
- 矢嶋 英典 (96回生)

男女共学

59回生

金子道子(旧姓飯田)

姪が清陵高校に通学している。清陵の近況を時々聞く。女生徒が多数になった以外、大学までの道程を勉強にコンパに堅実に青春を謳歌している様子で、三十五年前と変わっていない様にも思う。

私が清陵に入学した昭和二十八年は一年生約三〇〇名の男子生徒に女子二名だった。今から思えば男女共学が叫ばれ、そのしりの時代であったかと思う。

入学して周囲を見渡せば黒い詰襟の男子男子で、彩色の私服を着るにも抵抗があり、髪も短く刈上げて行く。細やかな配慮も多かった。確か女生徒が入学するようになって四回生の学年で、次学年は女生徒皆無、次々年一名という最も女生徒の少ない時代であったと思う。細やかな配慮も多かった。

随想

旧校舎の一角に小使室があり、その隣りに女子室という一年から三年迄の女生徒の集る部屋があった。雨漏り腐った畳に耳が生え、それをよけて小使さんが持ってきてくれたお茶で、二、三年の女子の高尚な進路や学習の話、各々の恋人のうわさ話を聞きながら、昼食をそこで摂った。

私は男子生徒が次第に大人になっていく様子を清陵で直接見聞きできて本当に良かったと思っていた。一年の時は三年の男子が政治や経済、高校の自治などについて自己主張しているのを見て、男はこうして大学に進み社会人となつて世の中を動かしていくのかと圧倒された。

やがて同学年の周囲を見渡すと自分の将来をしっかりと決め、着実に自分流に勉強し、大学受験さえも楽しんでいるかの如く振舞っている人も多く、自らを練磨する事の意味を大いに学ん

早朝汗を流したとか。又大先輩の中には登校前馬を曳いて来て荷を売って授業に出たとか。昭和初期富士見から徒歩通学の先輩も居った。

当時四年生から高等学校(大学)を受験して進学して行く人もあり、大抵進出日に来るものと信じていて、夜を徹して勉強した。

質実剛健、自治を誇りとしていたし、全校生一丸となつて校風作興に邁進していた。昭和四年板倉校長排

六十年安保

65回生 矢嶋徹英

白線二本入りの帽子と学生服が外観で、自主と質実剛健が心の清陵生達だった。

六十年は安保条約批准と阻止の国民的対立の中にあつた。清陵生としてどう考えたのか。結果は職員も参加して、「静かな勉強の場を与えて下さい」等のプラカードで市内行進であつた。

を築き、今、心を問われている。清陵生二人の子供を持つて思う事は、エゴ的大学受

今こそ理想を

96回生 矢嶋英典

今の清陵高校には、千人を超える生徒が通っている。清陵生二人の子供を持つて思う事は、エゴ的大学受



ハイクテク交際宣言。

数々の技術革新を生んだ20世紀も

残すところあと8年ばかり。

21世紀に向けて、今後8年間に

どんな新しい技術が飛び出し、定着していくか。

ミス工業は個性的な技術と正しい交際を行い、

ハイクテクを育てていきたいと考えています。

先進のメカトロニクスを追求する



株式会社 ミスズ工業 ミスズFA 株式会社

本社・工場 〒392 長野県諏訪市四賀3090 ☎(0266)52-6611代
 英輪工場 〒399-46 上伊那郡英輪町英輪1536 ☎(0265)79-8866代

〒392 長野県諏訪市四賀2970-1 ☎(0266)53-3369代

ミスズ工業 PROFILE

創業●昭和40年4月 資本金●2億円 従業員数●500名 売上高●90億円
 事業内容●腕時計部品製造・精密金型設計・製作、電子部品製造、FAエンジニアリング
 関連会社●ミスズFA株式会社、株式会社東北ミスズ、株式会社オプトランド

病院 田中クリニック

院長(外科・麻酔科)

田中 正利(第52回)

副院長(内科・小児科)

田中マキ子

諏訪市元町18番11号

☎(0266)52-2343

随想

清水が丘のかかりは、しるの長い服生帽に腰手拭は、ごく普通のいでたちだった。冬の厳しい寒さの中で、素足のまま高歯でカラコロンと音を立てて通った。学校にたどりつくころには鼻緒の先は真っ赤で感覚がなかったが、そういうやせガマンを大切にしていた代であった。女生徒も少ない（全校で三〇名くらい）女なんかにこられたやせガマン。おかげで現在に至るまで、女性の扱いとオシヤレのセンスは成長していない。

通学は今ほ懐かしい蒸気機関車だった。乗り換えに結構時間がかかり、汽車の中は宿題や予習の貴重な時間だった。地方会でまとま

て乗っており、優秀な上級生に教えてもらったこと、もたびたびであった。今日、はコンパなんていう連絡も、汽車の中でもあった。

歓迎コンパでの手荒い仕打ちはいまでも忘れられない思い出のひとつである。三日ほど体がいうことをきかなかった。でも、自由自治の気風の中で上級生、下級生にかかわらず天下国家を論じ、青春の悩みを語りあっていた。懐かしい。

語り始めた切りがなくて、当時の思い出が蘇ってくる。かけがえのない青春の日々である。

私は大学卒業後、高校教員として長野県に戻ってきた。そして、縁あって昭和五十一年より八年間母校の教壇にたった。前任校での四年間の経験はあったものの、私の教員としての資質は、この清水が丘の優秀な生徒と職員集団によって磨かれた。

お世話になった先生が、

だ何人も残っていた。ウシマサ、トッサ、シロサ、ユウレイ、それに前島先生、樋口先生など。故牛山先生には生徒の頃から地学研究室に入り込んで薫陶を受けた。地理の道に進んだのも教員になったのもその影響である。仲人までしていただいた。

二〇代の私にとって多くのベテランの先生存在はまさに教科書であった。受験指導だけに決まらず、くせず、瓢々と奥の深い授業を展開しては生徒の意欲を引きずり出していた。

当時の教員でその後教頭・校長になった人が一二人いるが、同等以上の力の人は優にその倍はいた。

生徒の知的好奇心を刺激する授業のためには私も勉強せざるを得なかった。年間で百冊くらい参考文献にあたった時期が二、三年あった。毎晩四、五時間は家で机に向かったが、あの頃は学校へ行くより家に帰ることが恐ろしかった。

今春、次女がまた清水が丘に通い始める。この娘はどのような清水が丘の三年間を過ごすのだろうか。期待と不安が入り交じる。私はまだまだ「自反而縮雖千萬人吾往矣」の世界で頑張ってみようと思う。

今の学生・今の教育

57回生 上島 武

何年か前、岩波文庫で出た『藤村随筆集』を読んでいると、次の一節が目にとまった。

「自分等の後から歩いて来る新しい人達のこと、位置を転換して見ることによって、一番よくはつきりと分かってくる。一即ち、それらの人達を自分等の先輩と考へて見ることによって。」

若い時分に私は、国語の伊東一夫先生の影響もあってか、藤村を読みふけたこともあるのだが、このくだりはまったく記憶に残っていない。一体、文学作品であろうとなかろうと、人はそれを読む時の心に抱いていることにしたが、何

ほどか印象を得、記憶もするものである。

実は、今度の印象が強烈だったのは、丁度そのころ、政治家と年齢と言ふようなことが気にかかっていた、とうに引退して後進に道を譲るべき人物が、いまだに最高の地位にあつて国民に多大の迷惑を及ぼしていることに憤慨していたからである。こういう手合いにこそ藤村の文章はふさわしい。さすがに偉大な作家は偉大な言葉を吐く、私は思わず膝を打った。

だが、もう一つの感慨もあった。ほかならぬ私自身がこれを銘記し、実践しなければ、ということである。ずっと以前から「いまどきの学生は……」の台詞が口に出してしまうことと、「新人類」なるものの生

ていること、これはひとつ反省してみる必要がないだろうか。

藤村の念頭にあったのは、多分、若い同業者や後進の作家たちで、私のような教師と学生の関係とはやや事情が異なると思うが、しかし、慨嘆すべき「新人類」の言動の中にも、新しい時代に適応し、先取りもする若者のしなやかな強靱さを認めるべきだろうし、その意味では彼らに学ぶことも少なくない。そして、いつの世でも「今の若い者は……」の常套文句は、それは自らが老いのしるしなのである。

とは言え、である。学生が本を読まないことには憤れていても、「先生の教科書は読まなければダメです」とくれば、バカ！の一言も言わざるをえぬ。「試験にはどんな問題が出ますか、単位はくれますか」が、年間講義の最終日ならぬ初日冒頭にいくとなれば、怒るより先にいぶかしさを感じ

むろん、これは理解しうることである。それは経済の学に言う「労働支出最少法」の見事な適用で、学生は最少の労苦で最大の効果をあげようとしているにすぎない。だから逆に、一定の成果を得るのに必要とあれば、彼らもけつして労苦をいとわぬ。

ただ、わが国の大学は「入りにくく、出やすい」のが一大特徴であるから、たいがい学生が劣せず卒業し、いく。そして今や、「大学は遊ぶところ、学ぶところは塾」なのだそうである。しかもこの定理には「系」とも言うべきものがあつて、将来何かの資格を取得するために大学での勉強は役に立たず、別の専門・技術学校へ通うことを当然とする。いわゆる「ダブル・スクール」がそれである。ここまですると、ただ嘆いたり感心したりではすまなく、現在、すでに一八歳人口の急減期を迎えて

いることとあいまって、実に大学の危急存亡にかかわる事態である。大学が学生を選ぶ時代は去りつつあり、学生が大学を選ぶ時代がもう来ているのだ。

何を為すべきか。教師は学生の教育に徹すべし、一つの回答である。「高尚」な学問研究は二の次でよしとして、ひたすら学生のニーズにこたえ、その中で学生の能力を向上させる職人的教師たれ、という。教師の授業を学生に「評価」させ、それを授業改善の素材にせよ、ともいう。すでにそうした試みも始まっている。

果たしてそれでよいのか。この激動する世界は、教える者自身が必死で勉強することを強制している。研究なくして教育なし、教育する自信もなし。そして、教える者の自信喪失を学生はけつして見逃さないであろう。

随想

想 陵

69回生 古原正之

清水が丘のかかりは、しるの長い服生帽に腰手拭は、ごく普通のいでたちだった。冬の厳しい寒さの中で、素足のまま高歯でカラコロンと音を立てて通った。学校にたどりつくころには鼻緒の先は真っ赤で感覚がなかったが、そういうやせガマンを大切にしていた代であった。女生徒も少ない（全校で三〇名くらい）女なんかにこられたやせガマン。おかげで現在に至るまで、女性の扱いとオシヤレのセンスは成長していない。

通学は今ほ懐かしい蒸気機関車だった。乗り換えに結構時間がかかり、汽車の中は宿題や予習の貴重な時間だった。地方会でまとま

って乗っており、優秀な上級生に教えてもらったこと、もたびたびであった。今日、はコンパなんていう連絡も、汽車の中でもあった。

歓迎コンパでの手荒い仕打ちはいまでも忘れられない思い出のひとつである。三日ほど体がいうことをきかなかった。でも、自由自治の気風の中で上級生、下級生にかかわらず天下国家を論じ、青春の悩みを語りあっていた。懐かしい。

語り始めた切りがなくて、当時の思い出が蘇ってくる。かけがえのない青春の日々である。

私は大学卒業後、高校教員として長野県に戻ってきた。そして、縁あって昭和五十一年より八年間母校の教壇にたった。前任校での四年間の経験はあったものの、私の教員としての資質は、この清水が丘の優秀な生徒と職員集団によって磨かれた。

お世話になった先生が、

だ何人も残っていた。ウシマサ、トッサ、シロサ、ユウレイ、それに前島先生、樋口先生など。故牛山先生には生徒の頃から地学研究室に入り込んで薫陶を受けた。地理の道に進んだのも教員になったのもその影響である。仲人までしていただいた。

二〇代の私にとって多くのベテランの先生存在はまさに教科書であった。受験指導だけに決まらず、くせず、瓢々と奥の深い授業を展開しては生徒の意欲を引きずり出していた。

当時の教員でその後教頭・校長になった人が一二人いるが、同等以上の力の人は優にその倍はいた。

生徒の知的好奇心を刺激する授業のためには私も勉強せざるを得なかった。年間で百冊くらい参考文献にあたった時期が二、三年あった。毎晩四、五時間は家で机に向かったが、あの頃は学校へ行くより家に帰ることが恐ろしかった。

今春、次女がまた清水が丘に通い始める。この娘はどのような清水が丘の三年間を過ごすのだろうか。期待と不安が入り交じる。私はまだまだ「自反而縮雖千萬人吾往矣」の世界で頑張ってみようと思う。

肥料・農薬
農業資材

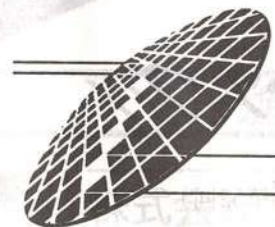


飼料・雑穀
工業薬品

茶屋商事株式会社

代表取締役社長 小口 達雄 (42回)

本社 諏訪市大字中洲字曾根田4808
〒392 ☎ (0266) 52-6500(代)
出張所 上伊那郡箕輪町中箕輪11896
〒399-46 ☎ (0265) 79-8510
出張所 北佐久郡軽井沢町大字長倉2306
〒399-01 ☎ (0267) 45-6114



高度な先端技術でオプトエレクトロニクスの
新しい分野へチャレンジ!

常に技術の限界に挑戦する

日東光学株式会社

本社・工場 諏訪市湖南4529 / 上諏訪工場 / 東京営業所

刊本による。有賀紀元次でも諸説あり。しかも実際の東京美術学校中退の理由に正確なところはつかめない。この間の記述には「スワ恋しさ」(四月一日・諏訪中の友達恋しさから来る「淋しさ」(四月一日)が表われているといえ、それを「悲観思想」として集約して退学してしまうというの何と云うても唐突である。

今まで言われてきた「美学校への不満」という退学理由も、この日記にそうしたことばなり記述なりの表われるのが、与えられた制作課題について「今日よりは退とうってかわつた下らぬ」という思いが昂じた、というところ、第三に、胃腸の弱いことに起因する自分の体力・健康に対する不安・危険が強まったこと、などを上げることができるのではないかと云うのである。もとよりこれと推測に過ぎず明確な根拠を示すものではない。

理由は何であつたか正確にはつかめないが、ともあれ有賀紀元次は東京美術学校に入學したものの一月、校に入學したものの一月、ちよつとでそこを退学してしまつた。父母兄弟(兄一人・姉五人・妹一人)の期待を一身に背負つての入学であつただけにさすがに気は重かつた。前記日記には退学を決めた三日後の五月二三日「長くした頭髪をかつてしまふ」、五月二四日「あんまり突然にかへるも如何なれば、うちへ手紙を出す。終日ねどにて煩悶」とある。そのようにして故郷へ帰つた紀元次は再び上京してあちらこちらの「美術研究所」を経めぐつて歩く。それらは教育の場には違ひないが、個人または複数の美術家の主宰する私塾であつて公的に認められた「学校」ではない。というこ

とになると、中川紀元の最終学歴は諏訪中学校である。それだけに紀元の諏訪中に対する思い入れは深かつた。

このついでだから書き田舎から都会へ出ていつた青年たちが当座にできることは同郷の仲間との交遊くらいのものである。これは昔も今も変わらないであろう。日記によれば、紀元時代の仲間たちとさかんに行き来している。手紙のやりとりもしきりである。交遊の相手は美学校の学生も二三あるものの、ほとんどが諏訪中学出身者で、七級上の今井登志喜だけは「今井氏」と書いているが、ほかの友人については、ほんのわずかにだけ例を上げれば「直公・康公・ヒツコミ・將軍・帯川・新村・啓蔵・テ

ご子弟の免許取得には
(東京方面の方は20日間で卒業できる合宿教習で)

長野県公安委員会指定
茅野自動車学校
茅野市宮川坂室5299番地 ☎(0266)72-4111

代表取締役 矢崎 齊 男 (51回)

中川紀元生誕百年展

によせて

有賀悠紀人(第63回)

編集の美才治氏からの話 表紙の見返しまたは遊び紙は「清陵小史」または「ミミ」に「長野県立諏訪中学校生二清陵史」というようなものを書けということであつた。深く考えもせずに「八十年史」の要約でもすればいいのだらうか、と思つて原稿を引き受けてしまつたのだが、さてどうということを書こうかと考えると、立派な「八十年史」があるのにいまさらわたくしごときが「小史」でもあるまいと思つて、思案にくれた。といつていまさら原稿を断わるわけに行かず、とつとつするうちに思いついたのが明治末期に諏訪中学校で使われた教科書がわたくしの手元にあることである。

その教科書の持ち主・使「生誕百年記念展」が開催される。それにちなんで紀元

とその周辺のことを書けば、の学生の軟弱なことに我慢を書けそうなので、美才治氏に電話するとそれでもよいというのである。教科書を思いついたときの当初の内容を紹介しながら明治末年の諏訪中学校の教育内容と現代の中学・高校の教育内容を比較してみようというのであつたのだが、以下に草する拙文は上述の次第で、明治の終り諏訪の地にあつた一つの青春とそれのその後とを点綴することにする。

諏訪中でその教科書を使つた有賀紀元次は諏訪中学校卒業の年の四月東京美術学校(現・東京芸術大学)に入學したがほぼ一月で退學した。このことについて今までの中川紀元関係年譜は「美学校の現状に失望、半月で退学する」(宮坂勝彦・編「中川紀元」銀河書房、一九八九、第一版)とほかない。

その日記の明治四五年四り、わたくし自身「美学校月一五日(月)に「愈よ今

い味ちがいす

品業工

谷

薬・料理

材資業農

会商

タケヤみそ

株式会社 竹屋 長野県諏訪市湖岸通り2丁目3番17号 ☎(0266)52-4000

取締役会長 藤 森 傳 衛 (31回) 取締役社長 藤 森 郁 男 (62回)

紀元の再度の上京の後美術研究所通いの時代、中村・茅野昌樹(第一四回、茅野儀太郎・蕭々第三回)の弟と紀元との三人による代々木での共同生活に発展する。「小鳥の巣」と自称した「自由奔放な合宿をやっていたことはその頃有名であった」とは有賀喜左衛門の言葉である(「お別れの言葉」註・紀元の葬儀の当日)。

紀元が諏訪中時代の思い出を語るとききまわって出てくる二つの話題があった。ひとつは、柔道部が何かの大きな大会に出場するとき、それに対する激励文を紀元が書き上げて校内に張り出したところ、その文章のみにてはもろろ、一人の自立した人間として日本の近代の現実を生きていくか、ねばならないことにまつわる現実的なものもろろのこと、さらには、とりわけ、名譽町民に選ばれたものの、故郷の人々が初めから紀元をそのように遇したのではなかった。このことについては有賀喜左衛門が兄は決して争いの相手であつたこと、峠で食べるその大福の美味であつたこと。

三輪三吉先生を偲ぶ

諏訪中草創期のブレイン

清陵側面史(その七)

冒頭に述べたように今年であるが紙幅もすでに無き中川紀元生誕百周年、それにちなんで紀元の周辺を。『百周年記念展』が成功すればかりうろつき歩い、書き落したことがかり。

冒頭に述べたように今年であるが紙幅もすでに無き中川紀元生誕百周年、それにちなんで紀元の周辺を。『百周年記念展』が成功すればかりうろつき歩い、書き落したことがかり。

昭和二年に諏訪中学校に入学した同窓会、名付けて昭二会としました。年次からは三三回生です。同窓会の中でも、古人の仲間になりました。

卒業してから幾年か、有志的な小集いはあつたが、昭和五年九月情熱的な数人の発起により昭二会が誕生した。その原動力は東京在住者の東京昭二会であつたと思う。会員は入会当時をめぐにするを強調

紀元の再度の上京の後美術研究所通いの時代、中村・茅野昌樹(第一四回、茅野儀太郎・蕭々第三回)の弟と紀元との三人による代々木での共同生活に発展する。「小鳥の巣」と自称した「自由奔放な合宿をやっていたことはその頃有名であった」とは有賀喜左衛門の言葉である(「お別れの言葉」註・紀元の葬儀の当日)。

紀元が諏訪中時代の思い出を語るとききまわって出てくる二つの話題があった。ひとつは、柔道部が何かの大きな大会に出場するとき、それに対する激励文を紀元が書き上げて校内に張り出したところ、その文章のみにてはもろろ、一人の自立した人間として日本の近代の現実を生きていくか、ねばならないことにまつわる現実的なものもろろのこと、さらには、とりわけ、名譽町民に選ばれたものの、故郷の人々が初めから紀元をそのように遇したのではなかった。このことについては有賀喜左衛門が兄は決して争いの相手であつたこと、峠で食べるその大福の美味であつたこと。

ご家庭に健康と美とくらしのリズムをつくる

薬剤師集団 **スギヤ薬局**

ドラッグストア

■本社所在地 千392 長野県諏訪市諏訪2丁目1-5

代表取締役社長 牛山 充正 (51回)

牛山 直秀 (89回)

本 部：(千392) 長野県諏訪市諏訪2丁目1-5
電話 諏訪 (市外局番0266) 52-0588

研修センター：(千392) 長野県岡谷市本町2丁目2-19
電話 岡谷 (市外局番0266) 23-8486 岡谷店2F

諏 訪 店：(千392) 長野県諏訪市諏訪2丁目1-5
電話 諏訪 (市外局番0266) 52-0315

下諏訪店：(千393) 長野県下諏訪町中央通り241
電話 岡谷 (市外局番0266) 28-4147

岡 谷 店：(千394) 長野県岡谷市本町2丁目2-19
電話 岡谷 (市外局番0266) 23-8486

茅 野 店：(千391) 長野県茅野市塚原2丁目1-1
電話 茅野 (市外局番0266) 73-2971

岡谷東店：(千394) 長野県岡谷市若宮2丁目5-3
電話 岡谷 (市外局番0266) 22-9833

商品センター：(千394) 長野県岡谷市若宮2丁目5-3
電話 岡谷 (市外局番0266) 22-9833 岡谷東店2F

平成3年度 定期総会の記

指名、議事に入る。

平成3年度定期総会は、6月16日(日)午後1時より、諏訪市駅前市民会館で、来賓、会員160名が参加、盛大に開催。

今年度は当番幹事58回生を中心、サブ幹事59、68、78回生で準備運営。

伊藤隆一(58回生)氏の司会進行により、小菅重男副会長(45回)の開会挨拶の後、荘厳な鎮魂曲を背景に、物故会員に黙禱する。

石井睦蔵会長(37回)が、「今年はどういう清陵づくしをするか」として博浪沙を中心とした中国旅行などが検討されているので、百周年を一緒にすることを、有賀裕委員長(50回)が中間報告。

次に、第三号議案「平成3年度事業計画・収支予算案」を事務局説明、審議の後、原案どおり承認され議事終了。

続いて、事務局より細則

変更に関する報告、各支部長紹介。

次回総会当番幹事59回生代表中島伸一氏より力強い挨拶。さらに、山本喜市先生顕彰碑建立寄付金募集について、立木正純(38回)

木之下氏は、クラシック音楽家の表情を撮り続けていた。音楽家の表情を撮り続けていた。音楽家の表情を撮り続けていた。



氏より依頼の挨拶あり、小話をエピソードを交えて話した。

平祐副会長(42回)の開会挨拶で総会を終了。

「毎年200回以上も音楽会に通って撮り続けた。また、写真撮る席があるが、日本には、迫力ある表情をねら

つて一瞬のチャンスを逃さずシャッターを押すのに苦労した。写真音楽家に見せて、直接交渉する方法から始めて、世界的音楽家から演奏写真撮ってほしいと頼まれるまでになった。好きな音楽写真だけを、食えなくてもかまわないと頑固に撮り続けてきた。一生懸命やっていたら気が相手に通じ、形になってくる。好きなことをやるのが大事」と話し、感銘を受けた。

講演終了後、隣りの諏訪丸光5階食堂に移り、懇親会に入る。林善八郎(58回)氏の司会、笠原忠夫58回生代表幹事の挨拶で、開会。

諏中、清陵時代の青春を懐古し、時を忘れて歓談は最高齢の古村敏章18回。石井会長を中心に大きな輪ができて、校歌斉唱。母校、同窓会の発展を願って万歳三唱し、明年の再会を約して散会した。(58回生 鈴木保男)

品質一筋

『品質本位』—創業以来三三〇年の節目を迎えた今、私たちは敢えてこの言葉を社是として掲げます。それは、『品質が全てに優先する』という信念こそ、先人達が育んだ最大の財産だと考えるからです。

長野県内では抜群、全国でも屈指の品質入賞歴を誇る酒蔵として、また全国過半数の酒造メーカーで品質向上に



貢献する『協会7号酵母』の発祥蔵として、真澄は常に品質の頂点に迫ることだけを念じて来ましたが、外見を飾ることも奇抜な個性で人目を引くことも苦手です。原料米を吟味し、技術や設備を常に最高の状態に磨き、そして地味だけれども文句無しに旨い酒を醸し上げる、そんな真澄らしさを大切にしながら、私たちはこれからも銘酒造りに心血を注いで参ります。

信州が生んだ天下の銘酒
真澄
マセ

東京支部

東京支部

一九九一年六月末、五八の、どの位の時間がかかる回生の約二〇名に、一〇月、そこへ独自のイベント四日、今年度東京支部総会、トなど一体組み込めるのかの当番に当たっての相談のため、殆どわからない。今までに何回か支部総会に出前から何人かが会う機会があればなんと話してはいたが、このことだけに話題を絞って議論したのは初めてのことであった。正直にいつ、今頃こんなことになったかという話、何らかの形でビデオを作った当日まで間に合うのか、という不安がなかった訳ではなかったが、それぞれに皆忙しい人たちが、この日にこれだけの人が一堂に会するまでにするに、なかなか大変だったのだ。

当日、セレモニーとして必ずやること、やらなければならぬことは概ねわかっていて、というものの、

したらとか、色々な意見が出て、これだとまるのかと些か心配だった。

二君がいた。テーマはこの夏、母校または同窓生での行事を中心として、余り欲張らないこと、今年の同窓会本部総会やその後の懇親会での記録は既に録画したテープがあるから、このあとの学校行事などを出来るだけ録ってうまく編集すれば何とかなるのではない、ということと案議一決した。

だが、幸いにして宮坂健二君がいた。テーマはこの夏、母校または同窓生での行事を中心として、余り欲張らないこと、今年の同窓会本部総会やその後の懇親会での記録は既に録画したテープがあるから、このあとの学校行事などを出来るだけ録ってうまく編集すれば何とかなるのではない、ということと案議一決した。俳優として舞台やテレビで活躍中の内山森彦(善一)の録音のため時間をとってくれた。また彼が篇中かぶっている字帽は、驚いたことに竹内直文君の在学当時のものが保存されており、無理をお願いして借用した。要した費用について、同窓生に実費で販売し

昭和シェル石油特約店

株式会社 細川商店

諏訪市諏訪二丁目10番4号

☎ 本店(0266)52-3737(代)

代表取締役	細川昭八	(51回)
専務取締役	矢島千晴	(41回)
	細川洋一	(84回)
	細川浩二	(86回)



平成3年度
定期総会の記

指名、議事に入る。

6月16日(日)午後1時より、諏訪市駅前市民会館で来賓、会員19名が参加、盛を事務局小口祐一(47回)氏、木下芳英(48回)氏に開催。

今年度は当番幹事58回生を中心に、サブ幹事59、68、(37回)より監査報告の後、原案通り承認。

伊藤隆一（58回生）氏の次に、創立百周年記念事業の原々案として、記念式司会進行により、小菅重男副会長（45回）の開会挨拶典、名簿発行、記念誌発行の後、荘厳な鎮魂曲を背景学内植栽の寄贈、同窓生のに、物故会員に黙禱する。著書・資料展示室の設置、

石井睦蔵会長（37回）が、文化講演会、音楽会、名曲会、今年はどういう清陵づくりをするかの節目の年として博浪沙を中心とした中国旅行などが検討されているので、百周年を一緒にすることを、有賀裕委員長に祝えるような同窓会づく（50回）が中間報告。

りをしたい」と挨拶。持田明夫学校長祝辞。祝電披露に続き、小口達雄諏訪支部長(42回)を議長に、議事後、原案どおり承認され議録署名人に伊東敬一郎(47回)溝口勉(48回)両氏を続けて、事務局より細則

変更に関する報告、各支部 演。
長紹介。

次回総会当番幹事59回生
代表中島伸一氏より力強い
挨拶。さらに、山本喜市先
生顕彰碑建立寄付金募集に
ついて、立木正純（38回）

木之下氏は、クラシック音楽家の表情を撮り続けて、
いる世界的な音楽写真家。
カラヤンや小沢征爾ら世
界的な指揮者に信頼され、
写真集を出すに至った苦勞
つて一瞬のチャンス逃さ
ずシャッターを押すのに苦
勞した。
写真を音楽家に見せて、
直接交渉する方法から始め
て、世界的音楽家から演奏
写真を撮ってほしいと頼ま

れるまでになった。好きな音楽写真だけを、食えなくてもかまわないと頑固に握り続けてきた。一生懸命やっていたれば気持ちが相手に通じ、形になってくる。好きなことをやるのが大事」と話し、感銘を受けた。

講演終了後、隣りの諏訪丸光5階食堂に移り、懇親会に入る。林善八郎（58回）氏の司会、笠原忠夫（58回）氏代表幹事の挨拶で、開会。

諏中、清陵時代の青春を懐古し、時を忘れて歓談はずむ。最高齢の古村敏章 18 回、石井会長を中心に大きな輪ができて、校歌斉唱。母校、同窓会の発展を願って万歳三唱し、明年の再会を約して散会した。

(58 回生 鈴木保男)

氏より依頼の挨拶あり、小話をエピソードを交えて語った。平祐副会長（42回）の閉会の挨拶で総会を終了した。

「毎年200回以上も音楽会を引き続いて、58回生の写真に通って撮り続けた。また、真家、木之下晃氏が、「世界の音楽家…カメラの目を通して…」のテーマで記念講演なく、迫力ある表情をねら

すむ。最高齢の古村敏章（18回）氏、石井会長を中心に大きな輪ができて、校歌斉唱。母校、同窓会の発展を願って万歳三唱し、明年の再会を約して散会した。

（58回生 鈴木保男）

技術や設備を常に最高の状態に磨き
そして地味だけれども文
句無しに旨い酒を醸し上
げる、そんな真澄らしさを
大切にしながら、私た
ちはこれからも銘酒造り
に心血を注いで参ります。

信州が生んだ天下の銘酒

真澄
マスミ



音楽写真だけを、食えなくともかまわないと頑固に据り続けてきた。一生懸命やっていたれば気持が相手に通じ、形になつてくる。好きなことをやるのが大事」と話し、感銘を受けた。

講演終了後、隣りの諏訪丸光5階食堂に移り、懇親会に入る。林善八郎（58回）氏の司会、笠原忠夫58回生代表幹事の挨拶で、開

会。

諏中、清陵時代の青春を懐古し、時を忘れて歓談は

こそ、先人達が育んだ最大の財産だと考えるからです。

長野県内では拔群、全国でも屈指の品評会入賞歴を誇る酒蔵として、また全国過半数の酒造メーカーで品質向上に

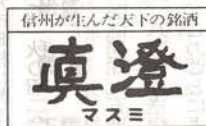


貢献する『協会7号酵母』の発祥蔵として、真澄は常に品質の頂点に迫ることだけを念じて来ました。

外見を飾ることも奇抜な個性で人目を引くことも苦手です。原料米を吟味し

品質一筋

長野県内では拔群、全国でも屈指の品評会入賞歴を誇る酒蔵として、また全国過半数の酒造メーカーで品質向上に



支那に於ける

東京支部

一九九一年六月末、五八の、どの位の時間がかかる回生の約二〇名に、一〇月四日、今年度東京支部総会の当番に当つての相談のために集つてもらつた。その前か何人かが会う機会があればなんと話はしてきくことから始めた。

行事を中心として、余り欲が、延十数回にわたって地歌について、難解でもあ
張らないこと、今年の同窓元諏訪や松本へ取材のため
会本部総会やその後の懇親往復したり、宮坂君が諏訪
会での記録は既に録画したへ行く予定の日に、急なア
テープがあるから、このあメリカ出張のため地元在住
との学校行事などを出来る者にピンチヒッターで撮影
だけ録つてうまく編集すれを依頼する羽目になった
任幹事会、当番幹事会の諒

特約店
商店
0番4号
737(代)
八 (51回)
晴 (41回)
一 (84回)
二 (86回)

いたが、このことだけに話題を絞って議論をしたのは初めてのことであった。正直にいうと、今頃こんなことをいっていいの、か、当日までに間に合うのか、という不安がなかった訳ではなかったが、それぞれに皆忙しい人たちばかり、この日にこれだけの人が一堂の日にこれだけの人が一堂

大体的様子を一同が呑み込んだところで、それではどうしようかということになったが、議論の挙句、何らかの形でビデオを作って、当日上映出来ないかということになった。しかし、誰が、どういうテーマで脚本を書き、撮影を誰が担当するの、費用は？ など難

ば何とかなるのではないかと
 ということで衆議一決した。
 俳優として舞台やテレビ
 で活躍中の内山森彦(善二)
 君の協力を得られたことも
 幸いした。内山君は舞台稽
 古などで多忙な中を割い
 て、何度も諏訪との間を往
 復してくれたら、ナレーシ
 ョンの録音のため時間をと
 り、清陵祭の掉尾を飾るフ
 ァイアーストームに五八回
 生OBをなるべく大勢動員
 すること等々、悪戦苦闘で
 あった。
 一九九〇年から東京支部
 独自に創刊された支部機関
 紙も、第二号が八月末に各
 会員の手元へ配布され、準
 備は着々と整った。
 解も得て、当日行われた
 九〇歳という御高齢にも拘
 わらずその矍鑠たるお姿に
 は、参会者一同尊敬措く能
 わざるものあり、感銘を呼
 んだ。なお、全くの偶然で
 あるが、「第二校歌」の解説
 については司会の石城君も
 研究を進めており、小生田
 中との共同研究論文が資料

昭和シェル石油
株式会社 細川
諏訪市諏訪二丁目1
☎ 本店(0266)52-3
代表取締役 細川 昭
専務取締役 矢島 千
細川 洋
細川 浩

に会するまでにすることす
らなかなか大変だったの
だ。

当日、セレモニーとして
必ずやること、やらなけれ
ばならないことは皆概ねわ
かっているとはいふもの
から徹底的に取材して紹介

つてくれた。また彼が篇中かぶつてゐる学帽は、驚いたことに竹内直文君の在学当時のものが保存されており、無理をお願いして借用した。要した費用について は、同窓生に実費で販売し

さて一〇月四日当日、石城浩吉君と河野達智子さんの司会のもと、寺島亮三当番幹事代表、小平祐東京支部長、石井睦蔵本部長、母校の守矢武久教頭らの挨拶として会場で配布された。続いて五八回生製作のビデオ「母校清陵そして同窓会 平成三年夏物語」が上映された。途中機械的なトラブルというハプニングのため多少時間を取つてしま



昭和シェル石油特約店

株式会社 細川商店

諏訪市諏訪二丁目10番4号

☎ 本店(0266)52-3737(代)

代表取締役	細川昭八	(51回)
専務取締役	矢島千晴	(41回)
	細川洋一	(84回)
	細川浩二	(86回)



たが、ご出席の同窓生の皆様方は、そのお話に真剣に耳を傾けておられました。

石井会長は、同窓会活動の今後にふれ、平成二年度一学年四〇〇名中四二％の一七〇名が女生徒であること、同窓会に女性の出席が少なく、同窓会役員に女性を選出する必要のあること等の提言がありました。また、現在の学生気質にふれ、現在の清陵生は勉強

富士見支部は会員がおおよそ百五十名です。若い方は多くは町外へ出て働いている方が多く、会合に出席する方は先輩の方が多い状態です。会員相互の交流を深め、心のつながりを強くしていきたいと常々思っています。なかなか会合の機会が持てず残念に思っています。

高齢の会員の方で、郷土を離れて県外の息子さんの方のもとに引き上げられた方が

平成三年三月十日に小松三郎さんがなくなりました。なくなられるまで、富士見の自然を愛し、その保護を呼びかけていました。細川昭副支部長が葬儀に参列して御冥福をお祈り申し上げました。

本年度の支部定期総会が、平成四年二月二十五日に、午後六時半より富士見駅前のお屋敷で開催されました。

今年度は原支部も総会でも開いて堂々と他地区と夏を並べて同窓会の仲間入りをしたいものだと考えておりました。しかし原支部の実情は、何年間も総会を開かないまま過ぎており、したがって支部員名簿もできておらず、役員さえ確定していない有様でした。

仕事といっても本部からの連絡事項を傳達する位が

精一杯の実情でした。
 たまたま近年になり同
 会を開いたらどうかとの考
 が高まってきたので平成
 年度になりました、
 副支部長 日達 進（49
 生 弘沢 副支部長 小
 實三郎（52回生） 中新田
 事務局・幹事 中村正英（
 回生） 柏木
 の皆様の活躍によりま
 て三月十五日ようやく総

半より上條食堂（茅野市町）において、支部幹事を幹事十五名出席のもと開催する。

議題としては、山本喜先生顕彰碑建立事業につき、寄附金につき各地区とに依頼することとした。また、事業計画としては、年は支部総会を開催し同生の交流を深めて行くこと、支部活動の活性化の体的方策として旧村単位

尚總會を行うにつき講師
を卒業生の中より小林和男
氏(玉川出身)、藤森照信氏
(宮川出身)、伊藤力司氏(玉
川出身)の諸氏に交渉を行な
つて行くことにいたしました。
山本喜市先生顕彰碑建立
寄附金につき九月六、七、
九日にわたつて支部長以下
幹事数名にて、主なる先輩

りました。

開会に当り、宮坂久臣支
部長より二月二十三日に開
催された常任幹事会の様子
が報告されました。(イ)百周
年記念事業計画に関する
件、(ロ)同窓生に関する状況
等、(ハ)学校長より報告され
た進学状況について等々の
概要でありました。

宮坂支部長の挨拶を踏ま
えて、ご来賓の石井同窓会
長、守矢教頭先生から、そ
れぞれの立場で詳細に及ぶ
お話がありました。学校の
現状、学生気質に関するお
話は、予定時間を越えまし

と言ひ、苦言を受けて、挨拶に立たれた守矢教頭先生は、同窓生であり思いは同じとの前置きの後、学校の現状、平成三年三月の進学状況、学年別に実施した学習時間調査結果等についての発表がありました。参加者全員で興味深く拝聴致しました。

本年度総会は特別な議題もなく、事業報告と会計報告を行ない終了しました。

懇親会は出席者中最年長

富士田

者の宮坂昌人先輩の若々しい乾杯のご発声にて開宴となり、賑やかな、楽しい支部総会となりました。

先輩を囲み若い会員が地域での縦のつながりを求めている懇談は有意義なものであったと思います。

本年度、わが岡谷支部総会には女性会員の出席を頂きましたことを報告し、次年度は更に盛会となりますことを心から祈念し、本年度の支部だよりとさせていただきます。(事務局)

兎支部

あいにくの寒さと、諏訪社の御柱祭を間近かに控えて忙しい方もあって、例年になく少ない出席者でありました。嬉しいことに若い方の参加が多くて、活発なお話し合いができました。

同窓会本部より小菅重男副会長さん、学校側より小口祐一先生が出席して下さいました。小菅副会長さんから、同窓会の活動について、特に百周年記念事業の計画についてお話がありました。富士見の自然の豊かなこと、山の幸の多い事、

美しい自然を壊さないでほしいといわれました。

出席者一同、誰れ彼れとなく近況について、仕事についてなど様々のことについて話し合い大変楽しい会合でありました。

お互いに親しさを増し、力のつながりを含め、協力合って行くには、会合をすることが一番大事ではないかと強く思いました。

最後に校歌を高らかに聴いて九時に終了しました。

(加々見一郎)

の運びとなりました。

この日は本部の清陵高等学校より支部激励をして下さいましたし、石井睦会長様が八ヶ岳山麓のグリーンプラザホテルまでお誘いいただきまして集まりました支部の皆さんを激励下さいました。その時全で歌った校歌がからだにしみこんでおります。

校歌(第二)

東に高き八ヶ岳
西にはひたす諏訪の

茅野

昨年九月二日、午後六

校歌は第二と続き、歌声は八ヶ岳の林に響く、こうした友との声を合わせての合唱は長いこと忘れていた。互いに感動しあい清き流れはアルプスの深き谷より出づとかやの感を深くしました。原支部に残っている会員は極く僅かですが今日の感激を胸に若い頃学んだ母校を思い、清陵の発展を祈りつつ、力を尽したいものと思えます。

富士見支部

原村支部

茅野支部

第18号



戸田哲夫さんを推挙、承認されました。戸田さんは目下清陵高校の教職にあり、若い同窓生との接触も多く、支部発展にとって、まことに好都合の方であります。すべての審議終了後休憩、ただちに、その場の雰囲気を一転、昔の芝居小屋を思い出させる「オセシにキャラメル」でなく、「ワンカップ仙醸」を一本づつお配りし、待つ程、少々、眼前のステージの幕がト

り、ライトに照らされた素
晴らしい金屏風、脇には外
題が掲げられ、「記念公演、
諏中・清陵寄席」の開演で
す。案内、螢亭光太 六六
オウゴンキョウタ
回生勅使川原明英氏、前
オウゴンキョウタ
座、清陵亭小生（五六回生
オウゴンキョウタ
戸田哲夫氏、真打、直志意
オウゴンキョウタ
かんだ（五八回生伊藤隆
氏）三氏の出演です。衣笠
も本格的で、熱演には大喝
采で、同窓生間の絆が一層
濃いものになる感を深く
しました。懇親会を三階大広

岡谷

平成三年度岡谷支部総
 は、四月二十五日（木）に
 岡谷市中央町の信濃屋で、
 一〇八名の同窓生の方々と
 ご出席を仰ぎ、盛大に開
 されました。当日は、花
 え模様の天候でしたが、十
 正六年入学第23回生の大生
 輩から昭和五十四年入学
 85回生迄の六十二年間に

生の出会いの場として、
さい。(支部長 長田源康)

支部

たる同窓生が、一同に会
ての賑やかな総会であり
した。

来賓として、当日は大
お忙しい中を岡谷支部総
のために、石井睦蔵同窓
長殿と、学校側から守矢
久教頭先生小口裕一先生
木下芳英先生の四名の方
にご都合頂き、ご出席を

岡谷支部

間に設営 役員と若干の方々の協力で、支部恒例の手造り料理を味わい、談論風発、青春を呼び戻し、明日への生き甲斐を抱きながら会を閉じることが出来ました。

平成三年四月、地元、辰野中学校から清陵入学者は二名、うち男子九名、女子三名で、はじめての逆転です。(昨年二三名、男子二名、女子一名、今後の活動で、より多くの女性会員を迎え入れる努力をしたいと思います。

思います。創立百周年を迎

せられる出来ごとでした。
最後に紙上をお借りして
ご案内をさせて戴きます
『生誕百年 中川紀元展』
東京松濤美術館（渋谷）
松濤二ノ四十四に
八月四日（火）より九月
三日（日）まで、九月
九日（土）から十月十九
日（月）までは、辰野町郷土
美術館にて、特別展が開催
されます。是非ご覧下さい
（中川紀元 十三回生 芸
院 恩賜賞受賞 洋画、彫
野町出身）
それぞれの美術館で、同

最先端にはロマンがある



理想を追究したツイストノイズカットトランス
ノイズ障害防止の切札で、近未来に先駆けるト
ランスです

高度情報化社会のアキレス腱＝不要電磁波・ノイズ障害の防止に尽くす

株式会社

電研精機研究所

本社・工場／〒203 東京都東久留米市八幡町1-4-21
TEL: (0424) 73-3745(代) FAX: (0424) 74-0613
大阪営業所／〒550 大阪府大阪市西区新町1-7-5 四ツ橋天祥ビル5号館
TEL: (06) 538-1118 FAX: (06) 538-2777

代表取締役 矢ヶ崎昭彦(47回)

一、日時 10月24日(土) 女子8時40分、男子9時
二、コース ⑤旧道高国寺前 ⑥高島公園 約23km
三、受付 OB控室 清陵会館(本校舎玄関前)
ゼッケン受取り後出発点へ 午前7時30分
四、参加料 参千円
五、その他 健康診断もお忘れなく。雨天延期
清陵湖周マラソンOB会
事務局 牛山 孝(59回) 会計 原 英充(65回)
Tel (〇二六六) 五二五九三六

記

同窓生の皆様、お元気でお過ごしのことと思います。日頃健康に留意され、運動されている方も多く存じます。さて、本年も恒例の湖周マラソンを下記により、母校の諸君に加えてもらい実施致します。多数の皆さんの参加と応援を期待し御案内とします。

「諏訪湖一周マラソン」の案内

諏訪清陵高校OB・OG

長 並びに、会長代行 立

会長 笠原俊一氏(諏訪市 協力感謝申し上げます)

先生顕彰碑建立実行委員会

が設立され、今後末長く趣

意を伝えていくことになり

ますことを申し上げます。

また、この顕彰碑の維持

管理は山本喜市先生顕彰碑

保存会(会長 立木正純氏)

が設立され、今後末長く趣

意を伝えていくことになり

ますことを申し上げます。

また、この顕彰碑の維持

管理は山本喜市先生顕彰碑

保存会(会長 立木正純氏)

が設立され、今後末長く趣

意を伝えていくことになり

ますことを申し上げます。

また、この顕彰碑の維持

管理は山本喜市先生顕彰碑

保存会(会長 立木正純氏)

が設立され、今後末長く趣

意を伝えていくことになり

ますことを申し上げます。

また、この顕彰碑の維持

管理は山本喜市先生顕彰碑

保存会(会長 立木正純氏)

が設立され、今後末長く趣

意を伝えていくことになり

ますことを申し上げます。

また、この顕彰碑の維持

管理は山本喜市先生顕彰碑

保存会(会長 立木正純氏)

が設立され、今後末長く趣

意を伝えていくことになり

ますことを申し上げます。

また、この顕彰碑の維持

管理は山本喜市先生顕彰碑

保存会(会長 立木正純氏)

が設立され、今後末長く趣

意を伝えていくことになり

ますことを申し上げます。

また、この顕彰碑の維持

管理は山本喜市先生顕彰碑

事務局だより

◆事務局は月曜から金曜日

て住所を問い合わせてき

たり、同窓会まがいの名で

半頃まで開いています。電

話・ファックスの番号は最

終頁をご覧ください。

◆同窓会への送金は、郵

便振替をご利用頂くと便利

です。口座番号は「長野

4365」加入者名は「諏訪

清陵高校同窓会」です。

◆三月の初めに、ミケラン

ジェロではありませんが、

会員名簿のデータがクラ

ッシュしてしまい、現在デ

ータの修復を急いでいる

ところ。出来るだけ以

前のデータに近づけるつ

もりですが、お知り合いの

方で、今年は会報が届かな

いというところをお聞きの

場合は、ご面倒でも事務局

へ御一報下さるようお願い

させていただきます。

◆最近 同窓会の名を使っ

た。二名の副支部長の内一名は

した。次期支部長予定者とする。

⑦事務局を設ける。

続いて松崎元博会計(50

回)より会計報告と山岸淳

監事(44回)より監査報告

を行いました。更に百周年

記念事業の具体的構想につ

いて、同窓会本部の有賀裕

委員長(50回)から、また本

諏訪支部

各位宅に向き、依頼を行

いた。同窓生の連携を密にし、

二十九日午前時半諏訪湖

畔において、山本喜市先生

は母校の一層の発展するこ

とを確信する次第でありま

す。(事務局 永澤俊是)

平成三年度の諏訪支部総

会、五月十八日(土)諏

訪シティホテル成田屋にお

いて開催致しました。

河西保美副支部長(57回)

の司会により、まず藤森正

隆上諏訪地区長(47回)の

開会の辞の後、鎮魂曲のも

と物故会員に対して黙禱を

捧げ、ついで小口達雄支部

長(42回)より「若い会員

や女性会員が年毎に増えて

いるので、役員もそれらの

会員の代表の方に就任をお

願ひして、会の盛衰を固り

たい」との挨拶が行われま

した。

続いて石井睦蔵同窓会長

(37回)、守矢武久教頭先生

(56回)から、それぞれ創立

百周年への記念行事の取組

み方や学校の現況等の詳し

び副支部長を推薦する。

⑥

⑤

④

③

②

①

⑦

⑧

⑨

⑩

⑪

⑫

⑬

⑭

⑮

⑯

⑰

⑱

⑲

⑳

㉑

㉒

㉓

㉔

㉕

㉖

㉗

㉘

㉙

二名の副支部長の内一名は

した。次期支部長予定者とする。

⑦事務局を設ける。

続いて松崎元博会計(50

回)より会計報告と山岸淳

監事(44回)より監査報告

を行いました。更に百周年

記念事業の具体的構想につ

いて、同窓会本部の有賀裕

委員長(50回)から、また本

部総会について、飯田節夫

幹事(58回)から説明があ

った山本喜市先生顕彰事

業について協力要請の説明

を受け、懇話会に入りました。

辞でしめくりました。

その後立木正純さん(38

回)から特に発言があり、大

正時代に体育担当の教師で

あった山本喜市先生顕彰事

業について協力要請の説明

を受け、懇話会に入りました。

辞でしめくりました。

その後立木正純さん(38

回)から特に発言があり、大

正時代に体育担当の教師で

あった山本喜市先生顕彰事

業について協力要請の説明

を受け、懇話会に入りました。

辞でしめくりました。

その後立木正純さん(38

回)から特に発言があり、大

正時代に体育担当の教師で

あった山本喜市先生顕彰事

業について協力要請の説明

を受け、懇話会に入りました。

辞でしめくりました。

その後立木正純さん(38

回)から特に発言があり、大

正時代に体育担当の教師で

あった山本喜市先生顕彰事

業について協力要請の説明

を受け、懇話会に入りました。

辞でしめくりました。

その後立木正純さん(38

回)から特に発言があり、大

正時代に体育担当の教師で

あった山本喜市先生顕彰事

業について協力要請の説明

を受け、懇話会に入りました。

辞でしめくりました。

その後立木正純さん(38

回)から特に発言があり、大

正時代に体育担当の教師で

あった山本喜市先生顕彰事

業について協力要請の説明

を受け、懇話会に入りました。

辞でしめくりました。

その後立木正純さん(38

回)から特に発言があり、大

正時代に体育担当の教師で

あった山本喜市先生顕彰事

業について協力要請の説明

山本喜市先生顕彰碑
建立される

二月八日には役員会を開

き、支部活性化の方法を協

議しました。

①本年度総会は十一月に

開催する。②講演会を復活

実施する。③多数の参加者

次第であります。(支部長 小口達雄)

有限会社 二葉薬局

井上彦次(42回)

井上優(72回)

井上幸彦(84回)

〒392 諏訪市大手1-3-2

TEL 0266-52-1242

FAX 0266-52-3460

整形外科 外科 産科 婦人科

立木医院

立木正純(38回)

(山本喜市先生顕彰碑保存会会長)

立木委枝

〒392 諏訪市諏訪1丁目22-24

電話 0266-52-1074

あなたにとって大切なものはなんですか。

Sankyo

自分らしい生き方は、
もう見つかりましたか。

世の中を変えていく
最先端テクノロジーに挑戦する
三協精機です。

ついこの間の常識が技術革新や経済
の進展で、あっという間にならなくな
り、この頃なかでも、マイクロエレクトロ
ニクス、ファインメカニズムなど、最先端
のファインテクノロジーの革新のほとん
どがこの日本で起こっています。そのフ
ァインテクノロジーの世界、未知の世界
に挑んでいるのが三協精機です。私たち
は、よりよい「モノづくり」のためには一
切妥協をしません。



ファインメカニズム&インテリジェンス

三協精機

東京本社 〒105 東京都港区新橋1-17-2 TEL:03-3502-3711/FAX:03-3502-6228

本社 下諏訪工場 〒393 長野県諏訪郡下諏訪町5329 TEL:0266-27-3111/FAX:0266-28-5833